朝鮮画報

1962年 9 月26日　第 3 種郵便物認可第33巻第 1 号
通巻389号1994年 1 月 5 日発行(毎月 1 回 5 日発行)

THE KOREAN PICTORIAL
1994月刊

1

古朝鮮始祖王檀君に関する学術報告会
祖国への想い、民族の誇りを表現
「労働1号」脅威論とはなにか
●佳話雅言 神山征二郎●ズームイン・はばたく 梁富好

1994学年度

朝鮮学校学生・幼稚班園児

募集

귀여운 아들딸을 우리 학교에

在日本朝鮮人中央教育会

〒112 東京都文京区白山4-33-14 TEL03(3815)8168

カワウソ

（イタチ科・半水棲哺乳類）

豊かな自然を謳歌する狩りの名人

日本では絶滅したと思われるカワウソは、イタチ科の半水棲哺乳類である。このカワウソが、朝鮮半島の数ヵ所で生息している。

カワウソの体長は70～80センチメートルでその３分の２ほどの尾を持っている。この尾は水中で泳ぐとき舵の役割をする。４本の足は短く足指の間には膜があり泳ぐのに適している。毛の色は濃い栗色で腹部は灰白色である。

河川の水が干上がったり少なくなると、森林の中で生活する。カワウソは夜行性で昼は川岸の岩場に造った巣の中で休んでいる。この巣には非常口が数ヵ所あり、外敵から身を守ることが出来るようになっている。

カワウソは聴覚と臭覚が発達しており、餌を捕るときや天敵に遭遇したときなどは、素早い動きをする。カワウソは漁の名手で、多いときには一日に100キログラム位の魚を捕ると言われている。

共和国では咸鏡(ハムギョン)北道延社(ヨンサ)郡新陽(シンヤン)貯水池に生息する新陽カワウソ（天然記念物第331号）、大同(テドン)江上流の大興(テフン)郡大同里(同55号)、臨津(リムジン)江(カン)上流の江原(ウォン)道法洞(ポプドン)郡栗洞(リュルドン)と里(同249号）を天然記念物に指定し保護している。

천・연・기・념・물

謹賀新年

で祖国は一つ

1994. 1. 1

白頭から漢拏ま

かけはし みてきた朝鮮

大江可之・日朝友好資料センター会長

明るさと活気にあふれる

不思議な日本マスコミの共和国報道

平壌の人民大学習堂で開かれた「白頭山写真展」の会場で

白頭山で女性解説員と記念撮影

写真提供＝筆者

昨年―一九九三年、私は二度、朝鮮民主主義人民共和国を訪問しました。

何度訪問しても思うのは共和国についての日本国内の報道と、共和国の実態があまりにかけ離れていることです。

平壌の街はいつ行っても実にさわやかで、明るく特徴のある街です。

四月は金日成主席の誕生のお祝い、八月は朝鮮戦争勝利四〇周年の記念行事に参加しましたが、こんなに平和で、すがすがしい共和国をなぜ素直に日本に紹介できないのか不思議でなりません。

春の訪朝のときはいわゆる〝核問題〟や南朝鮮のチーム・スピリットなどで共和国をとりまく環境が緊迫していたので、平壌市民のみなさんの表情にも少し緊迫したところが感じられましたが、八月の折には活気に満ちたみなさんに再び出会うことができました。

街の四ツ角、四ツ角には公衆電話が沢山設置され、市民や子供たちがさかんに電話をかけていました。

レストランの前は、どの店も家族連れなどで沢山の人だかりがみられました。

生き生きとした明るさと活気が満ち満ちていました。

昨年を振りかえってみて日本と共和国との関係は非常に不満足な一年だったと思います。

自民党、社会党、朝鮮労働党の三党共同宣言が発表されたときには、ほんとに日朝国交正常化が近づいたのではないかと胸をふくらませたものでした。

しかし、今はあの当時のことが全くうそのようです。

日朝間の人的交流も少なく、日本のマスコミも、政治家も、一般の国民も、心なしかひんやりとし、少しあせりのようなものさえあるのが感じとれてなりません。

なぜ、こうなったのか？　考えてみました。

国家制度、社会環境の全く違う国と国が、人と人とが交流することのむずかしさを痛感いたしました。

親善と交流を深めるためには、先ず相手の立場を十分に理解し、その上で自分の意見を相手に伝える――この当然のことがおろそかであったといえないでしょうか。

一九九四年は、昨年の反省の上で、何よりも日本と共和国との国交正常化への道を近づけてゆかねばなりません。

そうした中で、私ども日朝友好資料センターが発行している「平壌ニュース」は朝鮮民主主義人民共和国の日常のニュースや情報を日本国民につたえる重要な役目をしておりますが、こうした文化活動をもっともっと活発にして、交流を盛んにしてゆくべきでしょう。

いま日本は経済が破綻し、自分自身が精いっぱいかも知れませんが、東アジアの平和のためにもどうしても共和国との国交正常化は不可欠です。

また、朝鮮半島の平和と自主的統一を私どもはこれまで以上に、力強く支持してゆかねばなりません。

一九九五年には、第二回東アジア大会が共和国で開かれる予定ですが、そのためにも一九九四年はだいじな年だと思います。

この一年を〝無駄〟にしてはなりません。

ことしも私は、ぜひ共和国を訪問したいと思っております。また、共和国からもできるだけ多くの人をお招きしたいと考えております。

いま日朝両国民は、たがいにさぐり合うのではなく、深く信頼し合い、新しい一歩をふみ出すときだと思います。

あのきれいな街並み、悠々たる大同江の流れ――平壌の美しさがいまでも私の目に焼きついていて離れません。

白頭山、金剛山、妙香山――みんな日本にはないすばらしい山々です。

日本国民が一人でも多く共和国を訪れ、自然の美しさ、そこに生きる人々の美しさを堪能できる日を私は心待ちに望んでいます。

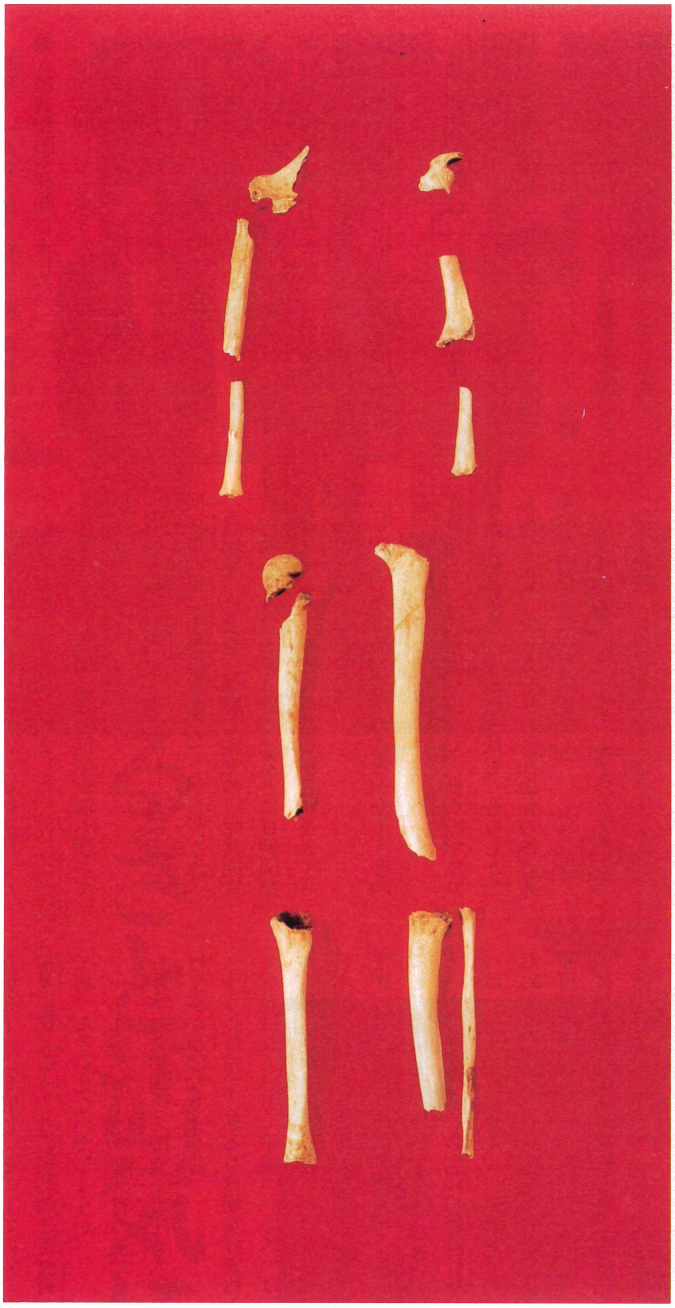
朝・日友好親善協会金養建会長主催の歓迎宴で

崔泰福書記と乾杯する

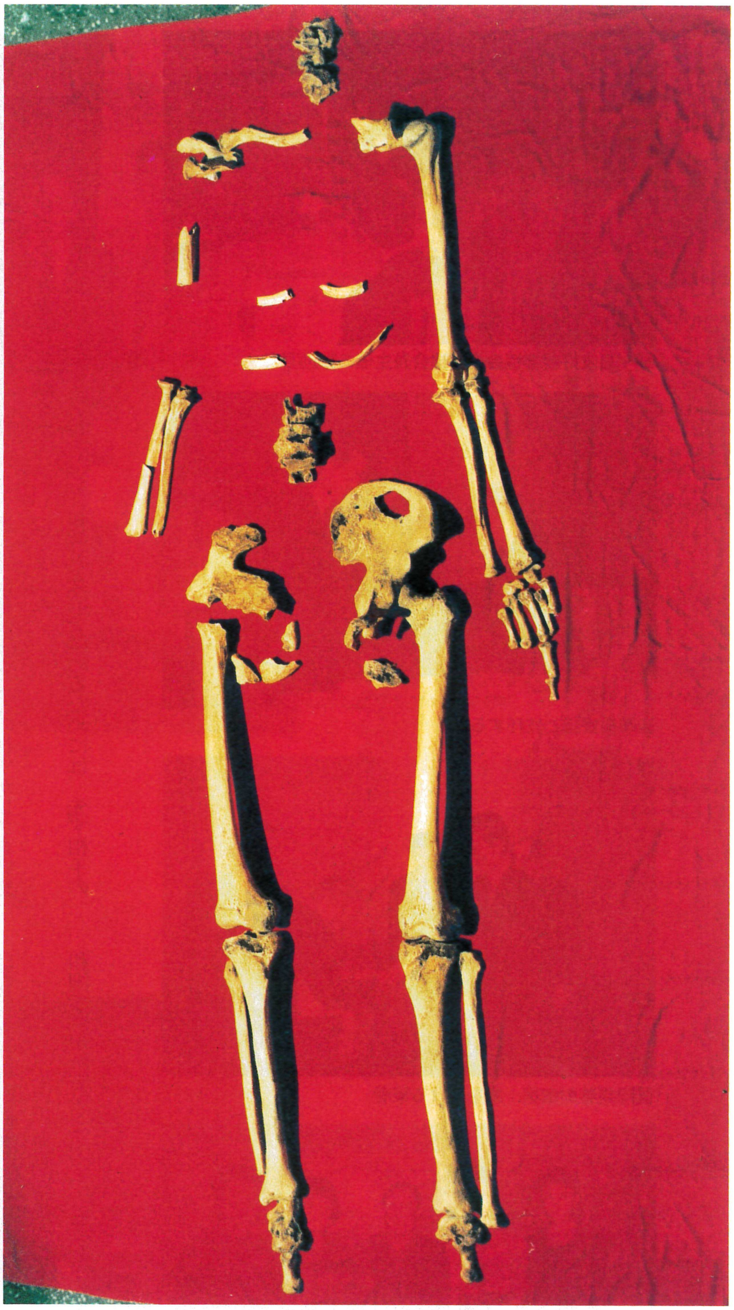
国際親善勲章第１級を受ける筆者

ポチョンボ芸術団のみなさんと記念撮影

金剛山でくつろぐ



檀君の妻と思われる女性の遺骨



出土した檀君の遺骨

古朝鮮始祖王檀君に関する
学術報告会

檀君陵の発掘調査と関連し平壌で去る10月、「檀君・古朝鮮に関する学術報告会」が開催された。その内の何編かを要旨で紹介する。

檀君陵で発掘された人骨の人類学的特徴について

張宇鎮（社会科学院考古学研究所室長）

新たに発掘された檀君陵から古朝鮮の建国始祖の檀君の遺骨と共に夫人の遺骨が発見された。陵の玄室内からは二体分に相当する八六個の各部分の人骨が出土した。そのうち四二個は檀君の骨、一二個が女性の骨であり、残り三二個はいずれか判別できない。

発掘当時、骨は盗掘者によって片隅で混ざりあっており、最も重要な頭蓋骨は残っていなかった。

まず、発掘された人骨の性別を調べるため遺骨に対する性別鑑定を骨盤と体の骨に基づいておこなった。

出土した一対の骨盤は厚く頑強であるなど、男性の特徴的な様子がはっきりと現れている。

女性の骨の性別鑑定は骨盤を欠いた条件で手足の骨によっておこなったが、埋葬された女性は労働経験のない貴族出身の人であったためか、体の骨のどの部分からも繊弱な女性の特徴が典型的に現れている。

次に、檀君の年齢を知るため残された骨盤で推定した。

骨盤の耳型部分と恥骨の結合部分面が年齢によってきわめて鋭敏に変化することが明らかにされて以来、それを年齢鑑定の指標としてよく利用している。

鑑定結果によると、檀君は当時としては非常に永く生存した長寿者であったことが明らかにされた。それは骨盤の恥骨の結合部分には五〇歳、恥骨には六〇歳の年齢鑑定の基準が設定されており、上腕骨の場合も七〇歳程度の年齢鑑定できる基準徴表が明らかにされているだけだが、この遺骨にはその年齢限界を遥かに越える特徴が表われている。したがって、檀君は設定された最高基準限界を遥かに越えた老人と言える。

女性の骨からは若い女性の特徴が現れている。それは多くの骨から端と端が分離される現象が認められたことにある。

次に、檀君の体格を手足の骨から推定したが、その身長は一七〇センチ以上であったと言える。

遺骨がこんにちまで保存されたのは、第一にそれが石灰岩地帯に埋葬されていたためと言える。

檀君陵は窪んで侵食した石灰岩の間を深く掘り、その岩盤の上に玄室を造った。したがって埋葬遺骨には石灰石のような水溶性鉱物質が多く溶解している水分の浸透が続いた。

第二に遺骨を腐食させない土壌のなかに埋葬されていたためと言える。

檀君の遺骨が安置された陵内の土壌はペーハーが七・〇で骨が腐食せず保存できる典型的な中性土壌であった。

このように檀君陵が石灰岩地帯に位置し、また陵の土壌が中性であるため檀君の遺骨がおよそ五千余年間も保存できたのである。

檀君陵の発掘状況について

朴晋煜（社会科学院考古学研究所研究士・博士）

檀君陵は平壌市江東郡江東邑から西北側に少し離れた大朴山東南側の傾斜面のふもとに位置しており、その東北側には阿達山がある。大朴山は檀君を象徴する「朴達山」（パクタル山＝神檀樹＝おのおれ）及び「倍達山」から由来するものと認められ、阿達山は『三国遺事』に登場する檀君が都を定めたという「阿斯達」と関連する名である。陵のある場所は解放前まで「檀君洞」と呼ばれていた。

檀君陵は石墓室に土をかぶせた石室封土墳であり、玄室と羨道からなる単墳墓である。方角は西にややかたよった南側である。

玄室の平面は南北二七六センチ、東西二七三センチの方形で、床から持ち送り天井一段目までの高さは一六〇センチである。

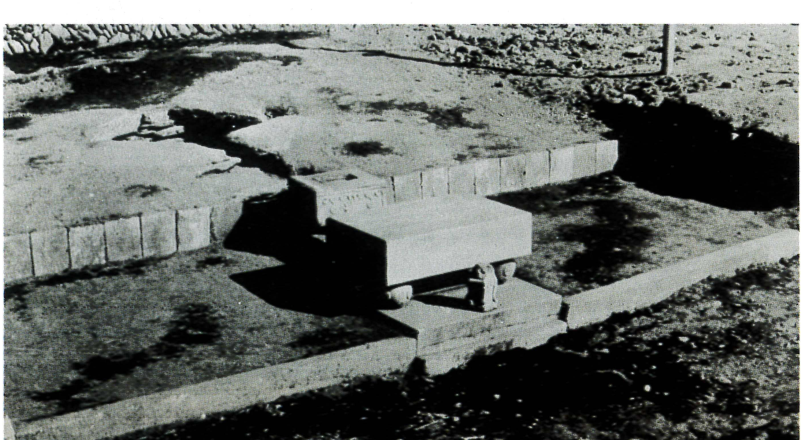
玄室の床は約二〇センチ掘って石を敷き土をかぶせたもので、その上にしっくいが塗ってあった。床には南北方向に三つの棺台があった。墓室の壁体は粗石や削った石で積み重ねており、上部へいくほど少しずつ狭まる。壁面には本来しっくいを厚く塗ったが、発掘当時、大部分ははがれて床に落ちていた。

『韋庵文稿』（注・張志淵の遺稿集）には、日本の考古学者たちがこの陵を発掘したとき、四方の壁に昔の仙人と不思議な人物図が描かれていたと記されている。

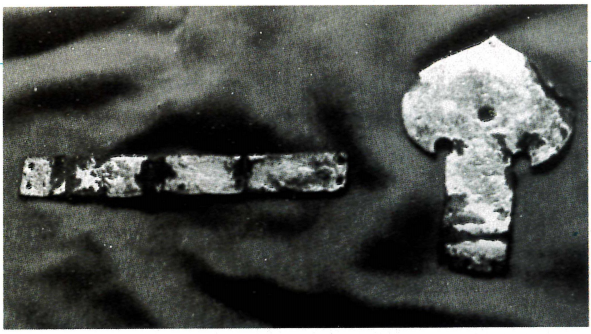
「昔の仙人と不思議な人物」が檀君であったことは容易に推察できる。

発掘過程で確認された資料によると、この陵はその後も数回に渡り日本帝国主義者によって、破壊盗掘されたが、その過程で檀君を描いた貴重な壁画はすべて無くなってしまった。その結果、今回の発掘では壁画の痕跡を全く見出すことができなかった。

今回の発掘で遺物は余り出土しなかったが、その中には非常に注目さ



檀君陵の全景（平壌市江東郡）



檀君陵から発掘された金銅王冠の一部

古朝鮮始祖王檀君に関する学術報告会

れるものがあった。第一に、二体分の遺骨が出土した。それは主に骨盤部分と手足の骨である。

第二は、金銅王冠前立部分の装飾と突帯の破片が一個ずつ出土したが、いずれにも厚く鍍金がほどこしてあった。

第三は、幾つもの小札（こざね）を連結して作った金銅帯の小札一片が出土した。

この他にも玄室には棺に打ちこまれた釘と陶器のかけらが幾つか発見された。

檀君陵の構造形式と出土遺物から、この陵が高句麗様式のものであることは明らかである。

陵の前には一九三六年に「檀君陵修築期成会」（別名檀君陵守護会）が有志たちからの基金で設置した墓域施設がある。

檀君の墓が高句麗様式であるのは、高句麗時期に改築した事情と関連する。

檀君陵が江東にあるのは檀君の死んだ土地が平壌であることをよく示している。『三国史記』高句麗本紀東川王二一年には「平壌は仙人王倹が住んでいた地である。または王の都王倹と言う」と記されているが、仙人王倹が檀君を指していることはよく知られた事実である。

檀君陵が発掘され、檀君の遺骨が発見されたことで、檀君が死んだ場所は平壌であり古朝鮮の首都王倹城も遼東地方ではなく平壌にあったことが実証された。これは人類発祥地の一つである平壌が朝鮮民族の発祥地であり、初の古代国家である古朝鮮の首都であったことを示すものとして、朝鮮革命の首都である平壌の歴史をよく表している。

檀君陵に関する歴史資料について

李俊英
（金星政治大学研究士・教授）

朝鮮を占領した日本帝国主義の檀君抹殺政策によって、檀君と関連した文献資料は数多く失われた。しかし、江東にある檀君陵に対しては祖先たちによって昔から檀君の墓として伝えられてきただけでなく、現在残っている少なくない文献資料にも明確に記録されている。

現存する文献記録は一五三〇年に完成された『新増東国輿地勝覧』で見出すことができる。それには次のように記録されている。

「大きな墓がある。一つは県の西

解説 「檀君神話」について

一九九三年一〇月二日、檀君陵発掘報告である「檀君は実在の古朝鮮建国始祖」が朝鮮社会科学院より発表され、続いて「檀君・古朝鮮に関する学術報告会」が開催された。

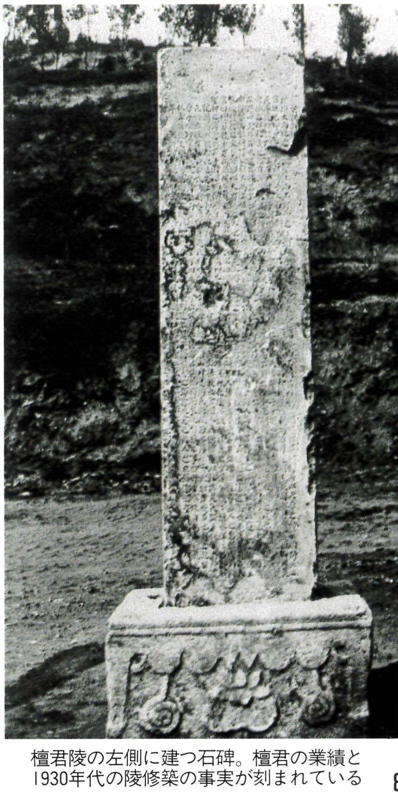
この度の学術調査報告と学術討論の中心テーマは、これまで朝鮮民族の始祖神話としてながく伝えられてきた檀君神話の檀君が神話上の伝説的人物か、それとも実在の人物であるかということであった。

学界の重鎮と第一線で活躍中の考古学、人類学、歴史学、民俗学、地理学、言語学などの各分野の学者、研究者による報告・討論は、おおむね考古学・人類学、歴史学・神話学・民俗学と地理学・言語学の三つの方向でおこなわれたが、結論は、檀君は実存する人物であり、朝鮮最初の国家である古朝鮮の始祖王であるということであった。

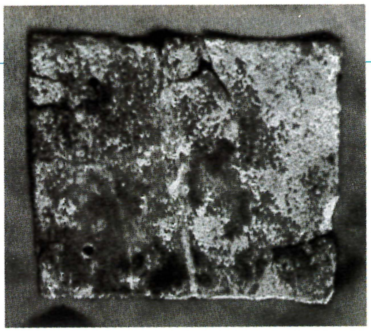
古朝鮮の始祖王・檀君の誕生と建国過程は、一二八一年に編纂された『三国遺事』と一二八七年に編述された『帝王韻記』に伝えられている。

檀君神話の骨子はつぎのとおり。

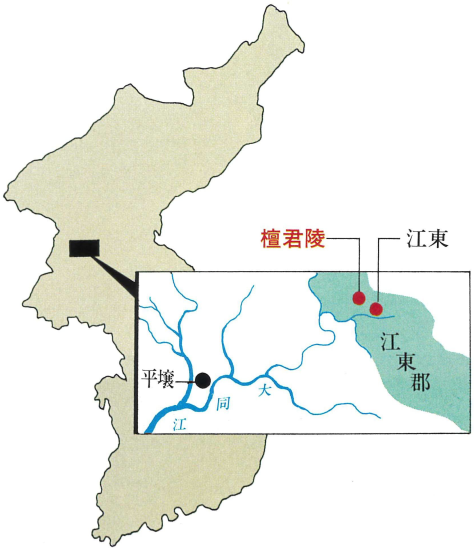
天帝の桓仁に桓雄という子があった。雄はいつも下界の人間世界を見おろして治めたいと考えていた。桓仁は子の意を察して太伯山（テベク）の峰の神檀樹の下に雄を降下させた。雄は三〇〇〇名の部下を引きつれ、風神、雨神、雲神を従えて穀物、生命、疾病、刑罰、善・悪など人間界に必要な三六〇余の仕事を掌握し、統治した。その頃、虎と熊が同じ洞窟に住んでいたが、人間になりたくて神檀樹の下で祈った。雄はそれをみて〃人間になりたければ大蒜（にんにく）二〇個と蓬（よもぎ）一束を喰べ、一〇〇日間、太陽の光を



檀君陵の左側に建つ石碑。檀君の業績と1930年代の陵修築の事実が刻まれている



金銅帯の板片



側三里の地にあって周囲が四一〇尺にもなる。民間では檀君の墓と伝える。」

檀君陵について明白に記録している文献資料はまた、一六二六年に編纂された『江東志』である。これに記されている檀君陵に関する記録は『新増東国輿地勝覧』の記録と全く同じである。

江東に檀君陵があることについては『李朝実録』にも多く記録されている。

『正祖実録』一七八六年八月九日(己酉)条には、承旨徐廻修の提案により「檀君の墓を修理し墓を守る戸(墓守り)を置いた」と記している。この時、徐廻修は次のようにのべた。「臣(徐廻修)が江東員であった時、村の西側三里のところに周囲が四百十尺もなる墓があるのを見ました。昔の老人たちは、それを指して檀君の墓であると互いに伝え合ってきており、柳馨遠の(『輿地記』)にも載せられていました」

この記録から墓が江東村から西側三里のところにあるということ、墓の周囲が四一〇尺にもなるということ、老人たちが互いにその墓を檀君の墓であると伝えてきているということなど、『新増東国輿地勝覧』の記録と完全に一致する。

以上の文献資料を結びつけて見ると、江東にある檀君陵を李朝封建政府が修築管理させていたことは間違いない。

しかし、それより以前の『世祖実録』によると、一四五六年に「該当官吏をして前朝鮮、後朝鮮、三国、高麗王朝などで都と定めた開城、江華、慶州、平壌……地方の王陵のある地を一つ一つ訪ね、功徳を遺した王たちには陵守り三戸をおき、別に功徳のなかった王には二戸、王妃の陵には一戸ずつおき、(中略)陵のある村で春、秋ごとに巡視し祭祀を執りおこなうこと」が記されており、江東の檀君陵に対する管理がはるか以前の時期からおこなわれていたことがわかる。

檀君陵が高句麗墓様式である事実と墓前に高麗時期の釉薬を塗った瓦片が出土したことなどは、高麗時期は勿論、それ以前から墓を檀君陵として認めていたと十分に推定できる。

以上見てきた文献資料は、江東にあるその墓が檀君陵であることをはっきりと証明している。また、平壌を首都として古朝鮮を建てた開国始祖である檀君が、死んで埋葬された地も平壌地方の江東であることを明白に示している。

みなければ人間になれるだろう〃と言った。熊は二一日めに女になった。性急な虎はたまりかねて飛びだし人間になれなかった。人間になった熊女が結婚することを願ったので雄は人間に化身して関係した。熊女は、妊娠し男子を生んだ。これが檀君王倹である。檀君は堯帝が即位してから五〇年目に平壌城(ヒョンヤン)に都を定め、国号を朝鮮とした。その後、都を阿斯(アサ)達(タル)に移した。檀君は一五〇〇年間治め、阿斯達に隠れて山神となったが、年は一九〇八歳であった。

ここには始祖王を神秘化し、威光と支配を合理化するための誇張と偽り、潤色があるが、それら誇張、潤色部分を消し去ってみると重大な歴史的事実が残る。

檀君の父・雄が降下したという太伯山とは現在の妙香山(ミョヒャン)を意味し、太伯山の伯山とは白山(ペクサン)(明るい、光りの山)を意味する。神檀樹とは박달(パクタル)나무(ナム)(おのおれの木)を意味するが、박다(パクタ)(明るい、光)で白である。달(タル)とは達(タル)で朝鮮古語の山の意味である。したがって박달(パクタル)とは白山(ペクサン)のことをいう。三〇〇〇名とは共同体の成員を意味し、風・雨・雲の神々は重要な部門を司どる貴族支配層を意味する。檀君は人間界の三六〇余の部門をおさえたということは、農業社会に入った共同体を支配する王を語り、刑罰、善悪を司ることの意味は、強制力、支配を語る王権のことである。虎は虎を祖先神とする虎族、熊は熊を祖先神とする熊族を意味する。熊族は虎族よりも優勢であったことを語る。檀君は平壌城に都を定めたが、後に阿斯達に移したというが、その阿斯達とは何だろうか。

達(タル)とは古語の山を意味するので、阿斯山である。今日の平壌の周辺にある山名である。

檀君神話が反映する歴史的事実とは、太陽神を祖先神とする集団が、檀君を王として熊族、虎族と融合して形成した新しい社会集団であった。この神話が反映する時代とは、氏族共同体の歴史が終末を迎え、新社会の階級社会の出現を語る歴史的転換を告げる時代を意味する。つまり紀元前三〇〇〇年頃である。

伝檀君陵の発掘によって、約五〇〇〇年前の人骨が発見された。この人骨は電子常磁性共鳴年代測定機によって測定されたが、五〇一一年前十二二六七年前の測定値を示した。このことによって伝檀君陵の人骨は、檀君の骨と推定され、檀君の実在を証明することになったのである。約五〇〇〇年前の檀君は、檀君神話が伝えるように平壌に都し、古朝鮮を建国したことを告げている。

平壌市江東郡江東邑(カンドン)にある檀君陵の周辺は、古くから伝わる檀君にちなんだ地名、伝説が多い。また、『高麗史』、『李朝実録』などの歴史文献は、古くから檀君陵の存在とその墓守りの記録を記載している。李朝の時期には檀君を記念する碑石などを含む施設が設けられていた。檀君陵の発掘とあいまって檀君に関する科学的考証が現在進行中である。

（編集部）

妙香山

毘盧峰の絶景

左望洞

下毘盧庵

万瀑洞から妙香川を経てしばらく登っていくと、天台洞と七星洞からの流れが合流する地点にぶつかる。この合流点から、妙香山でもっとも高い毘盧峰（標高一九〇九メートル）への登山路がひらかれている。ここから左へ向って天台洞の谷あいに至ると、一七世紀以前に建てられた建物である下毘盧庵がある。そして、宝蓮台を経て天台滝を過ぎると、ふたすじの滝が並んで流れ落ちる二仙男滝がある。この滝は、もともとは兄弟滝と呼ばれていた。しかし、労働党時代になってからは、現代の「仙女」ばかりでなく、多くの「仙男」たちがここを訪れて楽しく過ごすようになったというので、「二仙男滝」と名づけられたのである。

下毘盧庵から右へ向って谷あいに入ると七星洞に至る。七星洞では、万景滝、絹滝、獅子滝、銀糸滝などの名高い滝が、つぎつぎと姿をあらわす。

七星滝は、妙香山でもっとも高い場所にある滝として知られ、その高さは七五メートルである。この滝の落下点には、水深三メートルの青い池がある。

毘盧峰へは、下毘盧庵から二・五キロメートルはなれた白雲台と、ここからさらに一・九キロメートル先にある左望峰（標高一七九四メートル）を経て登るのがコースとなっている。

白雲台は「妙香山八景」のうちのひとつである。

白雲台から左望峰までの登山道は、朝鮮松、とど松、えぞ松の並木にいろどられていて絶景である。

天台洞と七星洞、毘盧峰の景色を楽しんでから、下毘盧庵にもどると、毘盧峰の下山道にさしかかる。

この毘盧峰の下山道は、冷泉谷、金剛窟、降仙台に、それに「明眼水」と呼ばれる泉を経て、毘盧門の休息地に至る。

この道のりはおよそ三キロメートルほどである。

金剛窟は、高さ三メートル、長さ一〇メートル、全幅一三メートルにもおよぶ大きな岩の下につくられた自然洞窟である。

この洞窟には、巧みに建てられた古い建築物金剛庵がある。ひさしには「金剛方丈」という額がかかっている。

金剛窟の東側をめぐると、大きな岩の下に珠玉のような泉がわき出ている。これが「明眼水」の伝説を生み出した泉である。

その昔、妙山村のある地主の家の下僕が、春ごろから目をわずらうようになった。目の病は日とともに悪くなるばかりであった。

ある日のこと、地主の家に来た僧侶から、仏像を拝むとよくなると教えられた。下僕は仏像に手をすり合わせ、掌がすりへるほどに祈ったが、眼病はよくならなかった。

いく日がすぎたある日、下僕は舞いおりてきた小鳥に案内されて泉のほとりに着いた。そして、その泉の水で目を洗うと、たちまちのうちに目の病いがなおってしまった。このうわさが広まると、目の病気にかかると、妙香山の人びとは、この泉の水で治療するようになった。そしてこのころから、この泉を「明眼水」と呼ぶようになった。

金剛窟の付近には、泉ばかりでなく、ウォンジョク庵、ネウォン庵などの庵がある。さらには、天から仙女が舞い降りた場所だというので、降仙台と名づけられた大きな岩がある。

毘盧峰の頂上で

白雲台

二仙男滝

フォト94

沃土うるおす生命水

台城湖

冬の台城湖(テソンホ)である。いちめんの雪景色で、湖水はもちろん凍結。魚たちはゆっくり、冬眠といったところだろうか。

1959年に完成した人造湖であるが、周囲32.5キロの灌漑用貯水池で、生命水の源として重要な役割を果たしている。

かつての岐陽(キヤン)灌漑区域は、土地の高低が激しく、水源に恵まれなかった。だから冬場になっても、凍る水さえなかった、といっても過言ではなかっただろう。

この地方の農民が例年のように、干ばつに苦しめられたのはいうまでもない。

しかし今日では、それは遠い昔語りとなった。広大な人造湖が完工し、二段階システムの揚水施設によって、大同江の水をひきあげ、広い田野をうるおしたからである。

台城湖から四方にのびる水路は1800キロ。南浦(ナムポ)市、甑山(チュンサン)郡、温泉(オンチョン)郡一帯の田畑が、その生命水の恩恵に浴している。

いまは冬。凍てついた湖水は春を待ちつづけ、やがて、ほとばしる奔流となって田野をかけぬけるであろう。

目次

THE KOREAN PICTORIAL

朝鮮画報

1994

1

1 ◉朝鮮の天然記念物 **豊かな自然を謳歌する狩りの名人**●カワウソ

2 **謹賀新年**●白頭から漢拏まで祖国は一つ

4 ◉かけはし—みてきた朝鮮 **明るさと活気にあふれる** 大江可之

6 **古朝鮮始祖王檀君に関する学術報告会**

10 **妙香山**●毘盧峰の絶景

12 ◉フォト94 **沃土うるおす生命水**●台城湖

14 **金日成主席が農業部門を指導**

16 **親善往来**

18 ◉明日を拓くリーダー **不眠不休の現地指導**

20 **幼児の才能啓発に情熱**●平壌大同門幼稚園長リ・ジョンニョさん

22 **九人の英雄を生んだ学校**●洪原高等中学校

24 **楽しいキャンプ生活**●咸興市少年団野営所

25 **生産職場で技術革新助ける**●照明器具連合企業所の「三大革命」グループ

28 **「社会への恩返しです」**●南浦造船所連合企業所

30 **彼女の誇り**●南浦製錬連合企業所のオ・ウィビンさん

32 **祖国への想い、民族の誇りを表現**
—共和国創建四五周年記念在日朝鮮学生中央芸術競演大会

36 ◉朝鮮・日本の歴史と文化 **総聯・民団合同ワンコリアパレード**●京都

38 **シーボルトの日本地図と「朝鮮海」** 任正爀

41 **朝鮮統一支持運動第12回全国集会**●大分

44 **持ち前のパワーと精神力発揮**
—チョンリマクラブ(大阪)が準優勝、高麗クラブ(東京)は三位に

46 **ファイル**●共和国●在日同胞●南朝鮮●海外●日朝親善

50 **「労働一号脅威論」とはなにか** 福好昌治

インタビュー

40 ◉ズームイン・はばたく **梁富好**●国際的人材育て民族に貢献

64 ◉佳話雅言 **神山征二郎**●自然と人間の関わり問い続ける

52 ●ぱらむ—風●キーワード

55 ●画報美術館

56 ●朝鮮のむかしばなし

58 ●映画●イベント●ことわざ

59 ●BOOKS

60 ●今月のアート●朝鮮の特産物

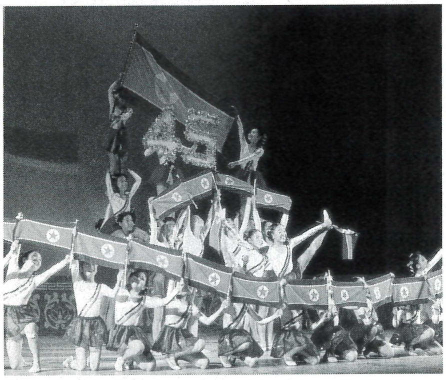
61 ●スポーツ●ベスト・ショット・私の一枚

62 ●朝鮮語教室

63 ●画報漫評●声

●表紙説明＝共和国創建四五周年記念在日朝鮮学生中央芸術競演大会から

●本誌に掲載の記事・写真は無断複製・転載禁じます©朝鮮画報社一九九四



表紙

金日成主席が農業部門を指導

金日成主席は九月一〇日、平壌市(ピョンヤン)寺洞区域(サドン)松新(ソンシン)協同農場と将泉(チャンチョン)協同農場を現地指導した。

金日成主席は、両農場の農場員がチュチェ農法の要求どおり農業を科学技術的に営んで大豊作をもたらしたことに大きな満足の意を表明し、地帯的特性に適した優良品種を育種して穀物増産に大きく貢献した松新協同農場の技術指導員、朴善国さんの功績を高く評価し、謝意を表した。

主席は、人民の食衣住問題をより円滑に解決するうえで最も重要な問題は農業を立派に営むことであると指摘、農業生産を高めるうえでの教えをのべた。

九月一八日、金日成主席は温泉郡(オンチョン)六月三日協同農場と国営二月三日農場を現地指導した。

主席は干拓地での農業を立派に営んだことに大きな満足の意を表明し、温泉郡六月三日協同農場ですべての営農作業を機械化して内部の労力で立派に営農していることは大変素晴らしいことであると指摘、これは農村テーゼの生命力の明白な証拠になるとのべた。

主席は新しい品種を研究開発して

温泉郡六月三日協同農場を現地指導する金日成主席

穀物増産に大きく寄与した農業科学院研究士、金貞華さんの功績を高く評価し、謝意を表した。さらに、国営三月三日農場の今年の営農経験は干拓地でも高い収穫をあげられることを改めて明白に示しているとのべ、干拓地農における具体的な課題と方法を明らかにした。

主席は、翌日の九月一九日、クァイル郡果樹総合農場を現地指導した。

大豊作となった各分場を見て回りながら果物の生産状況を具体的に把握した主席は現地で関係部門活動家協議会を招集した。

主席はクァイル郡果樹総合農場は国の富であると指摘、果樹農場を立派に管理しなければならないとのべた。

主席は、果樹に化学肥料や有機肥料を多く施し、水を十分に与えて果物の収穫を高め、果樹面積を引き続き増やしてより多くの果物を生産するなど、果樹業の発展で指針となる教えをのべた。さらに、生産された果物の運搬問題や加工についてのべた。

一方、金日成主席は果樹農場に対する現地指導と協議会を通じて国の果樹業発展の実態を具体的に把握したうえで果樹部門活動家会議を招集し、果樹業を新たな高い段階へ引き上げるうえでの課題を示した。

主席は果樹業とともに、油脂林や工業林の管理・造成を大衆的な運動として力強く展開するための課題を示した。

万景台学生少年宮殿を参観する米下院小委員長一行

摘、こんごの活動でのより大きな成果を希望するとのべた。

つぎに演説したスカマーク国防相は、現在タイと朝鮮民主主義人民共和国の友好関係は高い段階に達していると指摘、こうした友好関係はこんごさらに発展するであろうとのべた。

さらに、両国軍隊間の緊密な友好関係は両国間の友好関係の強化発展に大きく寄与するとのべた。

そして、朝鮮の発展ぶりを見て深く感動したと指摘、朝鮮が必ず一つに統一されることを確信したとのべた。

朝鮮民主主義人民共和国中央人民委員会政令により、国防相に親善勲章第一級が授与された。

アッカーマン 米下院小委員長が訪朝

アメリカの下院議員一行が10月、訪朝した。

金日成主席は米下院議員のゲーリー・アッカーマン下院外交委員会アジア・太平洋小委員会委員長一行と会見し、昼食会を催した。金日成主席は一行と記念写真を撮った。

金日成主席と金正日書記にアッカーマン議員が贈物をした。

滞在中、金永南副総理兼外交部長は万寿台（マンスデ）議事堂で表敬訪問のアッカーマン議員一行と会見した。

また、最高人民会議外交委員会副委員長の姜錫柱外交部第一副部長も一行と会見した。

席上、朝鮮半島はじめアジア・太平洋地域の情勢と朝米関係問題など相互の関心事となる一連の問題について意見が交換された。双方は、多くの問題で見解の一致を見た。滞在中、米下院議員一行は万景台を訪問し、各所を参観した。

アッカーマン氏は板門店（パンムンジョム）で内外記者と会見した。

同氏は、板門店の軍事境界線を越えて南に向かう道が非正常的なものではなく、正常なものになるよう希望するとのべた。

さらに、朝鮮民主主義人民共和国の全人民と真の協力と友好のきずなをもつよう希望すると指摘、朝鮮人民との友好のためにできるだけの努力を尽くすとのべた。

そして、今回の訪問を通じ朝鮮民主主義人民共和国と同地域についての見解を新たにしたとのべた。

アッカーマン氏は、訪問期間に金日成主席が多忙な中を時間をさいて会見し、昼食会まで催してくれたことを光栄に思うとのべた。

続けて、平壌がアメリカ人を招待し、提案に肯定的に応じていると指摘、朝鮮とアメリカがいつかはこうした協力、提案をもって懸案の問題を打開するであろうとのべた。

アッカーマン氏は、核問題と関連してこの問題の解決のための適切なルートを通じて努力が傾けられていると指摘し、こんご努力によって解決されるだろうとのべた。

マリの親善使節

マリのアフリカ民主連合・スーダン同盟全国指導委員会のアノドゥ・エル・ベルゴロゴ書記長を団長とするマリのアフリカ民主連合・スーダン同盟代表団が9月、平壌を訪問した。

金日成主席は代表団と会見し、友好的な雰囲気の中で談話を交わし、一行のために昼食会を催した。

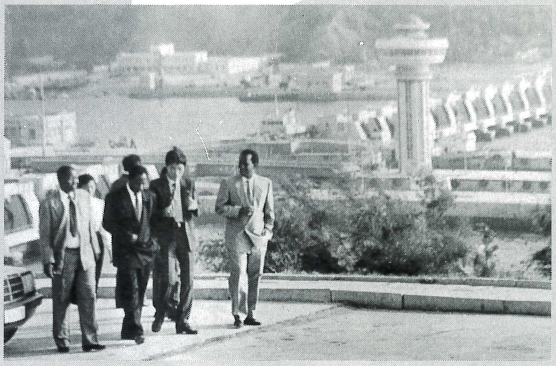
万景台（マンギョンデ）を訪問した代表団団長は、偉人の富は思想であり、被抑圧人民のために一生を捧げる精神に偉人の風格があると指摘し、金日成主席は朝鮮人民と社会主義のために一生を捧げるすぐれた指導者であるとのべた。

いっぽう、ヌム・ディヤキテ書記長を団長とするマリ外務・海外同胞及びアフリカ統合省代表団が9月9日から、18日まで訪朝した。

金永南副総理兼外交部長は代表団と会見し、歓談した。

滞在中、代表団は平壌市内各所を参観し、有益な日々を過ごした。

党創建事績館を参観するマリのアフリカ民主連合・スーダン同盟代表団


西海閘門参観のマリ外務・海外同胞及びアフリカ統合省代表団

呉振宇人民武力部長がタイ国防相と会見

社会主義偉業の勝利めざし

朝鮮労働党とペルー共産党が共同声明

朝鮮労働党中央委員会の招待によりペルー共産党中央委員会のレナン・ラフォ・ムニョス書記長を団長とするペルー共産党代表団が9月17日から30日まで訪朝した。

金日成主席はペルー共産党代表団と会見した。

主席は代表団と友好的な雰囲気の中で談話を交わし、一行のために昼食会を催した。主席は代表団一行と記念写真を撮った。

金日成主席と金正日書記にペルー共産党代表団が贈物をした。

滞在中、朝鮮労働党代表団とペルー共産党代表団間の会談がおこなわれ、共同声明が発表された。

共同声明で朝鮮労働党は、ペルー共産党が党を強化して民主主義と社会主義を実現し、広範な左翼民主勢力との統一を実現して帝国主義者の侵略と干渉に反対し、世界の平和と安全、軍縮を実現するために、社会主義偉業の勝利とラテンアメリカはじめ世界の革命的党の国際主義的団結と連帯を強化するために積極的に努力していることを高く評価した。

ペルー共産党は、朝鮮労働党と朝鮮人民が帝国主義者のあらゆる挑戦と妨害策謀にも動揺することなく社会主義偉業を確固と前進させていることを高く評価した。

ペルー共産党は、金日成主席が明らかにした「祖国統一のための全民族大団結10大綱領」の旗じるしのもと、民族自主の原則にもとづき国の自主的平和統一を達成するための朝鮮人民の闘争に全面的な支持と連帯を表明した。

双方は、社会主義めざして引き続きたたかうゆるぎない決意を再確認するとともに、平壌(ピョンヤン)宣言が発表されて1年足らずの間に、その署名数が200近くに増えたことは、宣言が進歩的人類の共同の闘争綱領となり、その歴史的意義と生命力に対する明確な証拠となると強調した。

双方は、各々の党は自国の現実と人民の要求に即して政治路線を作成しなければならないと強調するとともに、平壌宣言の精神にもとづき自国の具体的条件に即して党建設と党活動を進め、自主性と平等の原則にもとづき社会主義を志向する世界のすべての進歩的政党との国際的団結と協力、連帯のきずなをさらに強化するゆるぎない意思を再確認した。

双方は、冷戦は終結したものの国際関係で他国民族の内政に干渉して自主権を侵害する帝国主義者の支配主義的専横がさらに強まっていることに大きな注目を払い、あらゆる形態の支配と従属、不平等に反対し、国際社会の民主化のために積極的にたたかう共通の意思を再確認した。

両国軍隊間の友好協力

タイ国防相が訪朝

タイ王国のウィチット・スカマーク国防相一行が9月、訪朝した。

滞在中、金日成主席はスカマーク国防相一行と会見した。

主席は国防相と談話を交わし、記念写真を撮った。

金日成主席と金正日書記に国防相が贈物をした。

呉振宇人民武力部長は表敬訪問したスカマーク国防相一行と会見した。人民武力部は国防相のために宴会を催した。

席上、呉振宇人民武力部長は、国防相の今回の訪問が両国人民と軍隊間の友好関係を強化発展させるうえで重要な契機になるとのべた。

そして、タイ人民と軍将兵はプミポン・アドンヤデート国王陛下の正しい指導のもとに国の民主的発展と社会経済的繁栄、人民の福祉増進と国防力強化めざす活動で大きな成果をおさめていると指

ペルー共産党代表団が人民大学習堂を参観

剣徳鉱業総合企業所を現地指導する金正日書記

◉明日を拓くリーダー

不眠不休の現地指導

共和国ではすべての勤労者が八時間労働を保障されている。しかし、金正日書記はほとんど休みをとらないで、毎日、エネルギッシュに働いている。

主席の教えを学んで

一九七四年の夏に、書記が発議した朝鮮労働党の全国活動者講習会が開かれた。書記はこの講習会を直接指導したのであるが、その期間中も、各分野の活動家と会って指示を与え、決裁を要する数多くの文献に目を通してつぎつぎに結論を下すという仕事ぶりであった。そうした多忙な日々をへて、八月二日には講習会の最終日を迎えようとしていた。この日も書記は夜おそくまで寸暇を惜んで働いた。そして、夜明けになってから、その日の講習会の結論を述べる草稿を書き、当日は数時間も演壇に立ったままでこれを読み上げている。そればかりでなく、この講習会を成功裏に終えた後にも、そのまま執務室に戻って党務をつづけたという。

いま一つのエピソードを紹介しよう。一九七五年九月初旬のある日の真夜中、六ヵ年計画の生産目標を達成するための最後の増産運動を、ある部門で現地指導をしての帰路のことである。書記は車の座席でずっとイヤーホンを耳にあてていた。同行の幹部は、疲れをいやすために音楽を聞いているものとばかり思っていた。ところが、突然書記が「君も聞いてごらん」といって、そのイヤーホンを同行の幹部に渡した。彼がそれを耳にあててみると、それは金日成主席の演説を録音したものであった。演説が終ってイヤーホンを返すと、書記はこう語ったという。

「主席は朝鮮労働党創建三〇周年を迎える準備をりっぱにおこなうことについて、今朝、再び強調しました。私はどんなに忙しい時でも主席の教えを学習しています……」

この言葉には、すべてのことを主席の意図どおりにおこなうという書記の志が秘められている。

咸鏡道における現地指導

金正日書記は列車の中でも各種の報告書に目を通し、その日も咸鏡（ハムギョン）南道の目的地の駅に到着しても休息をとらず、その足で剣徳（コムドク）鉱山に向った。現場に着くとすぐに、鉱石を掘り出している地下の切羽にまで降りて、そこの作業員と増産について語り合った。

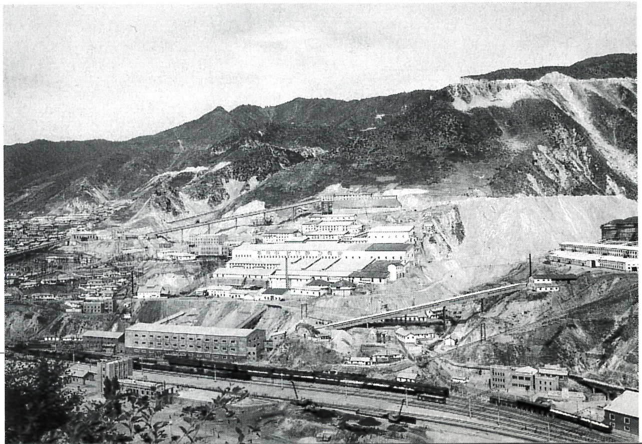
こうして書記は、この剣徳鉱山に午前九時から午後三時までの六時間にわたって、生産活動の方策を決定するための指導をつづけたのである。

金正日書記は、剣徳鉱山の現地指導を終えると、つづいて、オロ郡のある共同農場において、丸三日間、農民たちと膝をまじえて話し合い、指導をおこなった。

また、ある年のこと、同じく咸鏡北道に対する現地指導におもむいたときも、列車内で幹部たちと共に徹夜で仕事をして、夜明けと同時に、抗日武装闘争ゆかりの地である旺載（ワンジェ）山に登って、ここに革命史績地を建設するための具体的な指導をおこなっている。それが終ると南陽（ナムヤン）の建設の対策を講じ、穏城（オンソン）郡の党活動を指導し、同日の午後には西水羅（ソスラ）にある革命史績地を訪れるために昼食もとらずに出発し、同時に国境の豆満江（トゥマンガン）駅における輸送問題の解決策を講ずるために、ふたたび夜を徹して指導したのである。

金正日書記のこのような指導ぶりは、ただ単にエネルギッシュであるということばだけでは説明し切れないものである。朝鮮労働党の党活動および国家事業全般を統括的に指導できるだけの卓越した指導力を所有し、それぞれの部門の専門的知識を有し、とくには、人民大衆への深い愛情がなければ実現不可能な、そのような指導だといわなければならないであろう。

金正日書記の現地指導で驚くべきことは、わずか一日の日程をみても、農業、工業をはじめ、それぞれことなった部門を数ヵ所も訪ねて、そこに働く人びとと作業現場で話し合い、彼らの意見を十分に聞いて、それにもとづいて具体的な指導がおこなわれている事実である。これは、自らの身体をつうじて、それぞれにことなった部門の勤労者たちの労働の実体を体験しようという意図のあらわれであり、そこから働く人びとのなまの声を聞こうとする人民的活動作風、活動方法の模範だということができるであろう。



幼児の才能啓発に情熱

●平壌大同門幼稚園長 リ・ジョンニョさん

平壌大同門（ピョンヤンテドン）幼稚園の園長で、「功勲教員」称号も持つリ・ジョンニョ先生は、三〇余年を教育ひとすじに捧げてきた。

「学生時代から教師になるのが夢だった」というジョンニョ先生だが、彼女は解放前、慈江（チャガン）道狼林（ランリム）の山合いにある小学校すらない僻村に、火田民（焼畑を生業にする人々）の子として生まれた。ようやく学校に通えるようになったのは、祖国が解放されてからのことだった。

学びへの門が開かれ、思い切り勉強に打ち込むことのできた彼女はやがて、学校を卒業するとともにかねてよりの希望であった教職の道へと進むことになった。

青春の全てを教育に注ぐ彼女の情熱はとどまるところを知らず、一時期、高等中学校の教師だった頃などは、担任してきた十数クラスに、あらゆる面で秀でた学級に与えられる「模範学級」の称号をかちとらせ、国の授勲に付されてもいる。

一八年前から、ジョンニョ先生は大同門幼稚園の園長として働くようになった。ここは音楽室や各種楽器、通園バスなどの諸設備がよく整えられている。ととのった教育環境のもとで子供たちに接しながら、自身を育んでくれた祖国の愛情にこの幼な

園児たちの才能を目覚めさせるのに力を入れる

子供の教育は園長先生の最大の関心事

子たちもまた包まれて育ちゆくのだと思うと、ジョンニョ先生は胸が熱くなるという。

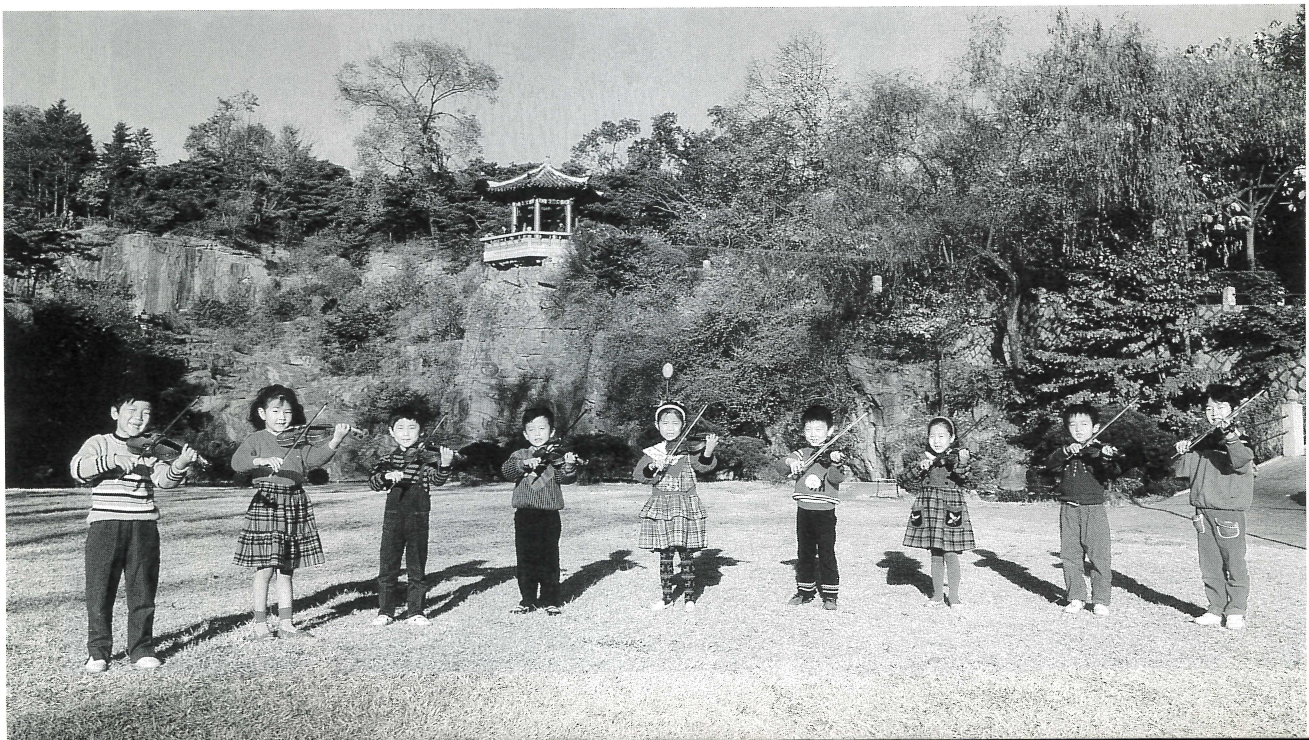
何をさておいても子供たちの教育を第一に考えるジョンニョ先生は、教育条件をより良くするためにいろいろと心を砕く。幼いうちから祖国の美しさに触れてもらおうと、遠く離れた地方へ出向いて標本を作ってきたり、子供の健康によい料理法を専門家に聞きにいったり、時には子供に楽器の奏法をどうすればうまく教えられるかと、他の保母たちと徹夜の討論を重ねたりもする。

こうした努力によって、同幼稚園は特に芸能分野でその才能ぶりを発揮。全国幼稚園芸術コンクールで一〇数年来トップの座を守り続け、さらに数百人にのぼる卒園生が成長して芸術大学に通うほか、国際舞台でも活躍中だ。

いつの間にか頭に白いものも目立ちはじめたリ・ジョンニョ先生だが、教育への情熱と喜びは相変わらず衰えていない。それは親、子、孫と代は変われど今も子供たちを暖かく包んでくれた祖国に報いようとする、教育者の澄んだ心こそが成せる技なのである。

▲大同門幼稚園園長で「功勲教員」でもあるリ・ジョンニョ先生

保母たちの授業法討論で指導するリ・ジョンニョ先生



健やかに才能を花開かせる子供たち

九人の英雄を生んだ学校

●洪原高等中学校

風光明媚な東海（トンヘ）の海辺に位置する洪原（ホンウォン）高等中学校（咸鏡南道（ハムギョンナムド））には、いろいろな種類の木々が茂っていて、ここを訪れる人びとの目をなごませる。

三かかえもある白楊をはじめ、松、朝鮮松、メタセコイア、イブキなど、およそ二〇〇余種の木々が数万本も立ち並ぶ学校近くの教材園には、八〇〇〇余名の卒業生たちの至誠がこめられている。

朝鮮戦争が勝利し、戦後の復旧建設がさかんにおこなわれていた当時のことである。

この学校の第二期卒業生であるリュ・ヨンギ英雄が、軍服の胸に金の星の勲章をつけて、母校を訪れた。

かれは、今から四四年前に勃発して三年間つづいた朝鮮戦争の時期に、アメリカの戦闘機一一機を撃墜し、一九五一年に朝鮮民主主義人民共和国の英雄称号を授与された。

かれは、すっかりかわった学校の周辺を見てまわり、自分が植えて育てた白楊の前に立ちどまった。

一九四九年に卒業記念として植樹した一〇余本の白楊がりっぱに成長して根をはったのである。

しかし、この木をいっしょになって植えた多くの学友たちのうち、前線からもどることのなかったその数は少なくなかった。

リュ・ヨンギ英雄は、あたたかく迎えてくれた教職員たちと後輩の生徒たちに囲まれて、激戦のさなかでも忘れることもなかったのは懐かしい母校であり、故郷の山河であったことを切々と語った。

この学校の教職員と生徒たちは、毎年、学校の周辺にさまざまな木を植えて手入れをし、りっぱな教材園をつくるようになった。

この学校の教材園には、第三七期の卒業生であるアン・ドンヒョク英雄が植樹したイブキがある。

かれは、一九八九年にこの学校を卒業してから朝鮮人民軍に入隊した。

アン・ドンヒョク英雄は一昨年一二月、部隊の演習中に、爆発直前の手榴弾を自分の体でおおって多くの兵士たちの生命を救い、自らは壮烈な最期をとげた英雄である。

その時かれはまだ二一歳の若さであった。

郡でおこなわれる学科競演大会（各学科の統一試験）ではつねに一、二位を獲得していたかれは、詩を書くこともできたし、教材園の樹木を心から愛した生徒であった。

この学校には、学校の生んだ英雄たちの写真とかれらの功績をたたえる「英雄記録集」がある。

「英雄記録集」の第一ページには、この学校の卒業生のうちで最初に英

副校長は九人の英雄について生徒たちに話すのが楽しみだ

雄になったリュ・ヨンギ英雄にかんする資料が紹介されている。

かれは現在、洪原郡協同農場経営委員会の指導員を務めているが、たびたび自分の母校を訪れている。

「英雄記録集」をめくると、ハン・ミョンホ英雄、リ・ドンス英雄、パク・ミョンジョン英雄、チェ・ハクン英雄、キム・ヤンゴン英雄たち九英雄の功績が順を追って記録されている。

九人の英雄のなかには犠牲になった人もいるし、朝鮮人民軍や人民経済の各分野で現役で活躍している人もいる。

学校では毎年、新入生たちに、学校の誇りであるこの「英雄記録集」と九人の英雄の学籍簿を見せている。

それらの資料では、英雄たちの学窓生活におけるさまざまな記録や、学科成績、組織活動のありさまがいきいきと息づいている。そしてこれらの資料や記録は新入生たちの生きた模範となっている。

学校ではまた、英雄たちと生徒たちの生活を結びつけながら、作文を書いて発表する集い、弁論大会、座談会などをしばしば催している。

こうした学校での生活をつうじて、生徒たちは、自分たちの故郷の村と母校を愛し、友人と集団、祖国と人民のために献身する精神をつちかっている。

昨年も一三〇余名の卒業生が祖国の栄誉と学校の誇りをさらに輝かせるという決意をいだいて、思い出の母校を巣立っていった。

リュ・ヨンギ英雄の戦功談をきく▶

キム・ヤンゴン英雄が働いている
水産事業所を参観する生徒たち

英雄たちが勉強した物理実験室で学ぶ生徒たち

学校の周辺をきれいに手入れする生徒たち▶

楽しいキャンプ生活

●咸興市少年団野営所

咸興（ハムフン）（咸鏡南道（ハムギョン））を流れる成川江（ソンチョンガン）下流の北東側海辺に麻田（マジョン）遊園地がある。

最近、ここに咸興市少年団野営所の一段階工事が完成し、学生少年の楽しいキャンプ生活が始まった。

毎年四月から一〇月まで咸興市の学生少年がキャンプ生活をすることになるこの野営所は学生少年の年齢や心理的特性に合わせて設計された。

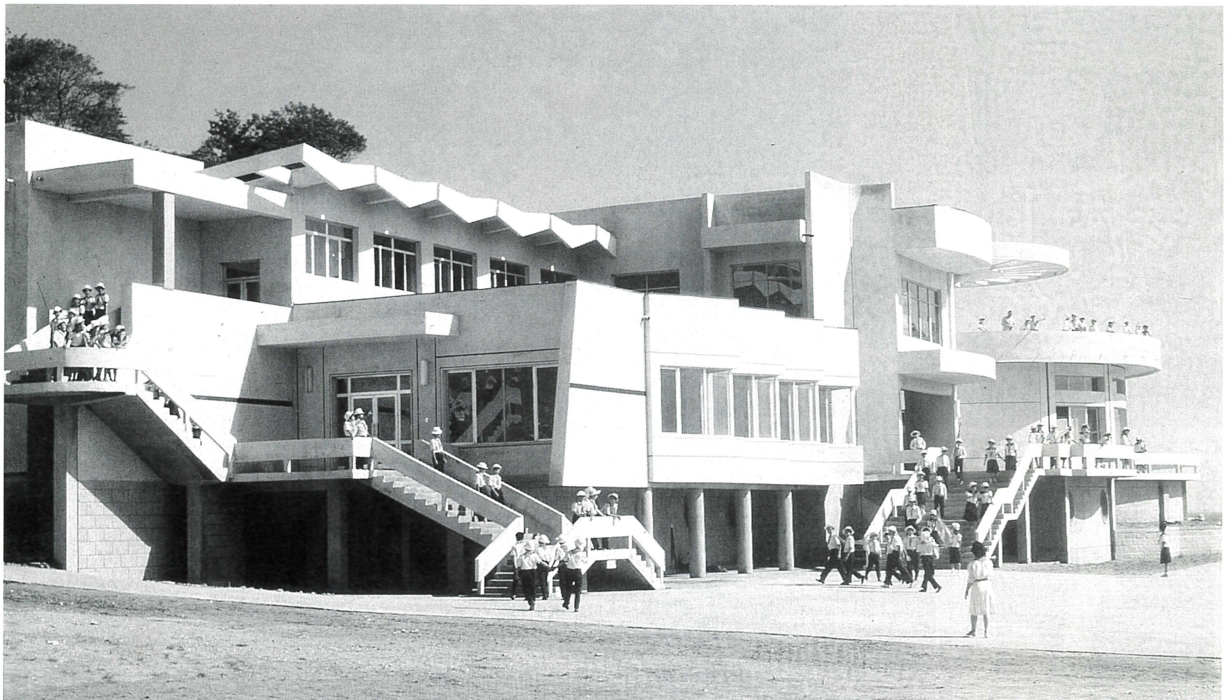
七階建てのこの野営閣には寝室や遊戯・娯楽室、学習室、座談会室などがある。

二階建ての食堂は一階が多くの部屋からなり、三〇〇余人が同時に食事できる。二階にはキャンプ生たちの誕生日祝いができる部屋や音楽室、コンピューターゲーム室などがある。

野営所には専門知識を有する指導教員や管理者、医療担当者たちがおり、親身になってキャンプ生たちの面倒をみる。

野営所で学生少年たちはキャンプ生活の間、指導教員の指導とアドバイスを受けながら海水浴をメーンに登山、ボート遊び、植物採集などをしながら知識を深め、心身を鍛えることになる。

野営所の一段階工事が完成、キャンプ生活が始まる



生産職場で技術革新助ける

照明器具連合企業所の「三大革命」グループ

メンバーたちは生産工程の現代化、オートメ化について意見を交わす

照明器具連合企業所に派遣された三大革命グループのメンバーたちは、「頼もしい助言者」と工場の職員に親しまれている。

大学を卒業したてのホヤホヤながら、理知的かつ情熱に満ちたインテリ揃いである。もちろん、生産の「生きた現場」に関してはまだまだ疎いものの、未知のものに果敢に挑むのを本分とする若者たちは、いざ現実の中へ飛び込んでいく。

職員と共に働き、学びながら党の政策を伝え、先進の科学技術知識を普及させていくメンバーらは、生産工程の現代化にも目を向けている。

昨年の三月、退勤の時間後に職場を通りかかったメンバーの一人チョン・チルホさんは、機械の前でなにかを描いては消す作業を繰り返す一人の労働者に出会った。労働者はプレス工のリュ・キョンサムさんだっ

労働者、技術者らと共に

た。

キョンサムさんのかたわらには図面と技術書が置かれていたが、それは蛍光灯第一曲げ工程における型打ち作業改造案を練っていたのだった。生産の能率化を図っての苦心と模索の跡が見て取れるその図面に目を通したチョルホ君は考えた。

(ぼくたちは労働者、技術者の間に広がる技術革新運動を助け、成功へと導くためにここに派遣されたんじゃないか)と。

その日からチョルホ君はキョンサムさんと共に、機械の前に向き合って図面を引き、必要な部品の製作のためにあちこちの工場を回るようになった。

こうして数ヵ月後、ついに改良案は試験段階に至った。ところが、何度繰り返しても試験はうまくいかない。キョンサムさんもさすがに「もうあきらめましょう」とため息をついた。

しかしチョルホ君はあきらめない。「設備の改善は技術革命の一部。信念なくして仕事は成し遂げられません」と、早速失敗の原因捜しにとりかかった。

動揺せずに最後まで努力すれば必ず成功する、というチョルホ君の激励と助けに力を得たキョンサムさんもそれに続いた。

この努力は最近になって実り、彼らの作業場には新たな生産工程が見事姿を現したのである。

三大革命グループの協力と努力によって、その後は他の作業場におい

生産職場で技術革新助ける

●照明器具連合企業所の「三大革命」グループ

蛍光灯の寿命試験をおこなうグループのメンバー、パク・チョンスクさん

休憩時間、労働者たちに新しい歌を紹介する

創意工夫を重ねるメンバー

ても生産工程の改良事業が多くおこなわれるようになっている。照明器具連合企業所派遣の三大革命グループ責任者のチョン・ヨンイル君はこう語っている。

「生産者大衆と共に思想・技術・文化の三大革命を進めていくことは、私達の自慢であり、誇りなんです」

「社会への恩返しです」

一二〇余件の技術革新案をつくったチャン・チャンウクさん

―南浦造船所連合企業所

◉

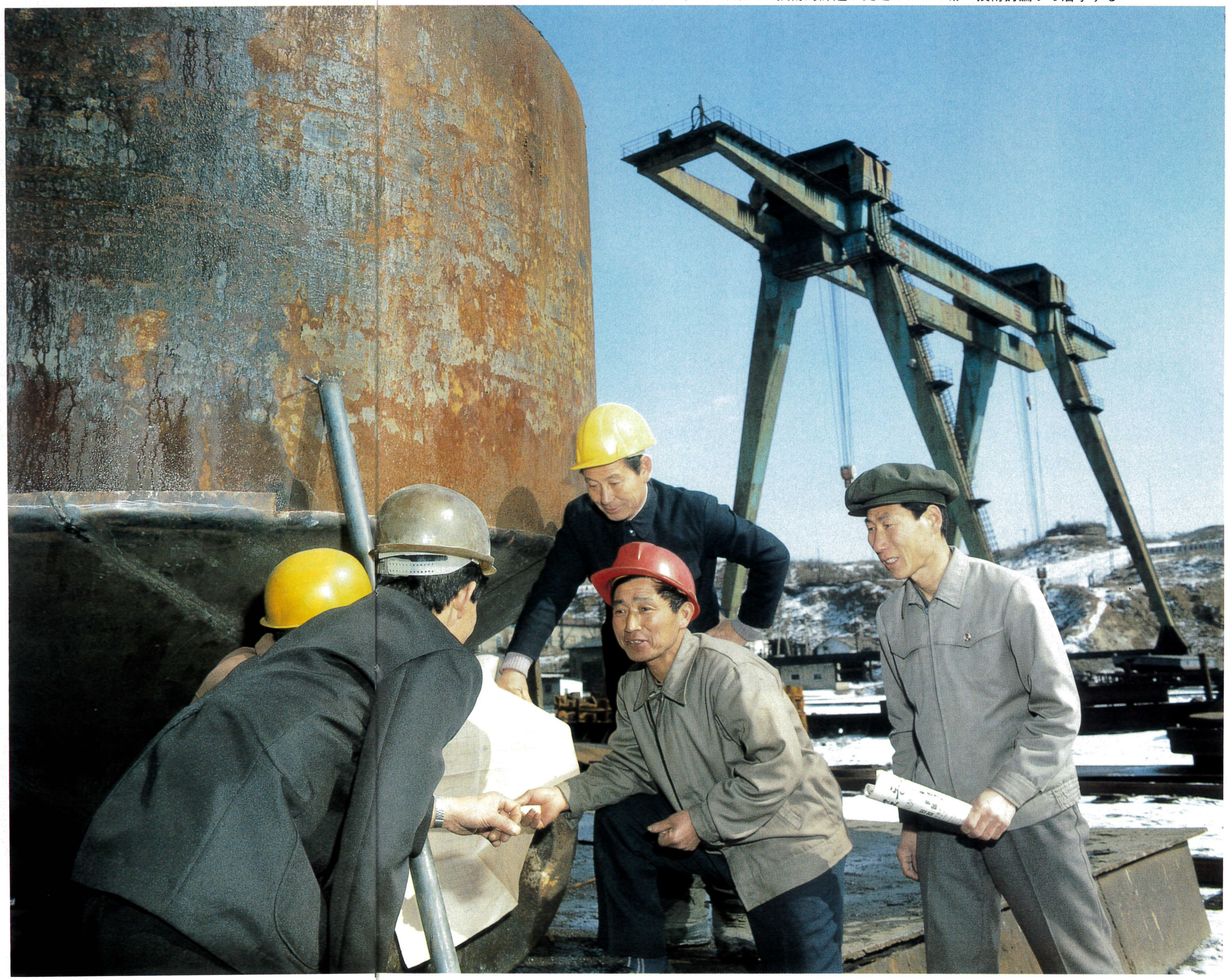
職場では「アイデアマン」のニックネームで呼ばれるチャン・チャンウクさんは、南浦造船所連合企業所で二五年のキャリアをもつ熟練製管工である。彼はこれまで一二〇余件の技術革新案を考案し実際に生産現場に導入している。

チャンウクさんが、技術革新案を次々に編みだし「アイデアマン」ぶりを発揮しているのは、彼が特別な専門技術に長けているからでも、そうした任務をになっているからでもない。

「ただ少しでも生産をのばしたいからですよ。おかげさまで子どもも大きくなって親の手を離れるようになったし、これまでの恩返しのつもりでなにかしようと考えるようになったまでです」と、あくまで控えめだ。

チャンウクさんの妻リ・ヨンエさんは臥牛島区域の鮮魚商店で販売員をしており、二男一女の子どもがいる。

現在、長男のトゥソン君は高等中学校を出たあと人民軍に入隊し、次男のトクソン君は南浦船舶工業大学の学生、そして末娘のミファさんは高等中学校の六年生だ。



製管工のチャン・チャンウクさん（中央）は、作業上の技術的課題が提起されると常に技術討論から着手する

一般に子育ては家庭にとって最も苦労の多い仕事の一つで、成長過程には必ずいくつかの事故やトラブルが生じるものである。

だが、チャンウクさん夫婦には、幸いにも子育てでこれといった苦労が思いあたらないほど、ことは順調だった。もちろん悩みやトラブルが皆無だったわけではないが、家族が悩むような大きな事故やトラブルを体験することはなかった。

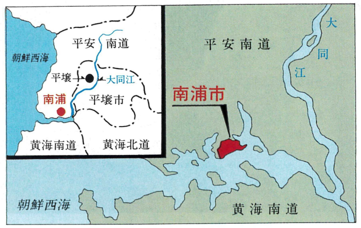
共稼ぎ夫婦にとって子どもが幼児だったころ、託児所、幼稚園はありがたい存在だったし、長じて人民学校、高等中学校、それに大学に進んでの教育費負担の心配のない制度的恩恵は、チャンウクさん夫婦の生活負担を大きく軽減するものだった。

「それに、病気にかかっても治療費の心配のないのも助かります。安心して仕事にはげむことができますからね。親はなくとも子は育つっていいますが、まさにそれですよ」と明るく笑う。

最近は、すっかり成長した子どもをみるにつけ、「これまではこうした制度に甘えてばかりで、これといった恩返しができなかった」と考えるようになったという。

「私の考案などまだまだひよこで、恩返しとはとてもいえないものです。でもこれからもいいアイデアが湧けばどんどん実行しますよ。その内にはましなものも出てくるかも知れませんからね」と謙遜するが、その意欲には並々ならぬものがあった。

チャンウクさんの妻リ・ヨンエさんは販売員として奉仕、住民に親しまれている



娘のミファさんは手芸家のタマゴ（一番右）

次男のトクソン君（中央）は、南浦船舶工業大学で目下勉強中

彼女の誇り

南浦製錬連合企業所のオ・ウィビンさん

オ・ウィビンさんはつねに労働者たちと語り合い、かれらの要求を満たしている

南浦製錬連合企業所飲料職場長
オ・ウィビンさん（左）

分析室で各種の飲料の分析をすすめているオ・ウィビンさん

ここに、還暦をむかえようとしている一人の女性がいる。
　彼女の名はオ・ウィビンという。彼女は二〇代ですでに科学研究で成果をあげて国際的にも名を知られている。現在は南浦製錬連合企業所の飲料職場の職場長を務めている。
　彼女は「誇り」について話してくれた。
　その「誇り」とは、オ・ウィビンさんの過去と現在の生活をそのまま圧縮することのできる内容であり、さらには明日にたいする変ることのない熱烈な志向でもある。
　二〇代で大学を卒業した彼女の青春時代は情熱と探究の日々であった。
　一九六一年にモスクワでひらかれた国際科学技術討論会に参加した彼女は、新しい分解法によるペクチン（果実などに含まれる多糖類）の生産方法について発表した。
　五〇余ヵ国からこの大会に参加した科学者たちは、彼女の成果に心からの祝福をこめて拍手を送った。この国際討論会でオ・ウィビンさんは特別賞を授与された。
　そうした彼女が、研究生活の舞台を首都平壌から南浦市に移したのには、それだけの理由があった。
　以前に、自分の研究成果を現場に導入するために、彼女は南浦に行ったことがある。そのときに、彼女は製錬連合企業所を参観して深い感銘をうけた。
　それは、一九四五年の解放直後、新朝鮮建設の全般を指導するという多忙な日々に、金日成将軍がこの工場を訪れて、なによりもまず、労働者たちの健康を気づかったという感動的な話であった。その話は若い女性科学者であるオ・ウィビンさんの心をつよくとらえ、人間にたいする熱い愛情の尊さを教えてくれたのであった。
　オ・ウィビンさんは、この工場で清涼飲料水をつくって、それを毎日労働者に供給しようと決心した。彼女は一科学者として、労働者のためになにかできれば、それに越した幸福はないと考えた。
　こうしてオ・ウィビンさんは故郷でもある南浦市に移ったのである。
　企業所では、彼女の希望を受け入れて、新たに飲料職場をつくった。そして彼女をこの職場の職場長に任命したのである。
　彼女は職場長であると同時に科学者でもあった。
　彼女は全力をかたむけて、労働者たちの健康増進に役立つ清涼飲料水の研究につとめ、新しい製品を開発していった。
　こうして彼女は毎日を研究と実践の積みかさねで過し、そのプロセスで学位論文を書きあげ多くの特許をも得た。
　共和国では彼女に高い国家勲章をさずけてその労をねぎらった。
　職場で新製品の清涼飲料水が供給され、それを飲む労働者がよろこぶのを見るたびに、オ・ウィビンさんもまたよろこびを感じ、誇りをおぼえるのであった。
　金正日書記は、オ・ウィビンさんを、労働党と祖国への至誠にあふれた科学者として高く評価した。
　オ・ウィビンさんは、一昨年にひらかれた朝鮮知識人大会で、ひな壇にすわるという栄誉にかがやいた。
「このような誇りがどこからもたらされたものでしょうか。人民のよろこびが第一であり、人民のよろこびが実現されている共和国があるからなのです」
　これは、オ・ウィビンさんが語ってくれたことばである。
　いまでもこのことばは、意味の深い余韻となって、人々の心をとらえている。

分析室で研究にはげむ

朝鮮民主主義人民共和国創建45周年記念

在日朝鮮学生中央芸術競演大会

「全民族大団結10大綱領」支持実現10万名署名運動での奮闘ぶりがうかがえる、尼崎朝鮮初中級学校・中級部の群舞「10大綱領署名運動の革新者」

祖国への想い、民族の誇りを表現

朝鮮民主主義人民共和国創建45周年記念・在日朝鮮学生中央芸術競演大会が11月4日から6日まで東京朝鮮文化会館(東京・北区)と朝鮮大学校講堂(東京・小平)でおこなわれた。民族教育の花園で学ぶ、つぼみたちの開花する日がまちどおしい。

模範学校の栄誉をおどりに。「輝かせよう『２重称号』われらの誇り」京都朝鮮中高級学校・中級部

愛知朝鮮中高級学校・高級部合唱「リムジン江」

重舞「剣の舞」。千葉朝鮮初中級学校・初級部

東春朝鮮初中級学校・中級部の群舞「太鼓の舞」

朝鮮民主主義人民共和国創建45周年記念

在日朝鮮学生中央芸術競演大会

横浜朝鮮初級学校　チェ・ソンスくんの独唱「伝えておくれ」。チェくんの純真さがうたごえににじみでていた

千葉朝鮮初中級学校・中級部の民族器楽合奏「トラジ」

表彰状をうけとる尼崎朝鮮初中級学校・中級部代表

今大会は、去る一〇月の地方予選を通過した三七六種目で競われた。四日に高級部門・開会式と競演が、五日に初中級部門・開会式と競演が各々おこなわれ、六日の優秀作品発表では今大会の金賞受賞作品中、二三種目の作品が披露された。

優秀作品をはじめすべての作品には、いつも祖国を思いこがれながら祖国のにないてとして勉強にはげむ生徒たちの姿や学校でのようす、民族的情緒が声楽と舞踊、民族器楽、洋楽器のメロディーに生き生きと表現されていた。

六日、朝鮮文化会館でおこなわれた表彰式では李光南審査委員長が講評をし、朝鮮総聯中央・金守鎮教育局長が成績発表した。

講評のあいだ学生たちは、成績発表のほうが気が気でないというようす。成績が発表される瞬間、水をうったような会場は一気に「キャー」「ウ

東京朝鮮第一初中級学校・初級部の洋楽器合奏「花あそび」

カヤグム併唱「ひばり」。北九州朝鮮初中級学校・中級部

栃木朝鮮初中級学校・中級部重舞「長鼓(チャンゴ)の舞」は民族楽器の長鼓にポソン(朝鮮のくつ下)をはいて民族性が色濃く表現された

重舞「美しき祖国の山河」。東京朝鮮中高級学校・高等部

東大阪朝鮮中級学校合唱「ニルリリ」

洋楽器合奏　神戸朝鮮高級学校「勝利行進曲」

ォー」、「やった!」の割れんばかりの歓喜の声でわきかえった。なかには、うれしさのあまり、抱きあって泣き合うほほえましい姿もみられた。

優秀作品発表会には総聯中央・許宗萬責任副議長、朴在魯副議長が大会関係者と大会参加学生、学父母とともに観覧した。

初級舞踊部門・群舞で尼崎朝鮮初中級学校の「新しい教科書」(金賞、優秀作品)は今年から改編された新しい教科書で学ぶよろこびが表現されており、中級部舞踊部門・群舞「輝かせよう『二重称号』、われらの誇り」(同)は京都朝鮮中高級学校が模範学校として二重称号の栄誉をうけるまでの過程とこれからもその栄誉をかがやかせていくという学生たちの気持ちを形象したもの。

民族器楽部門では初・中・高級あわせて例年よりも多い二八校が参加し民族音楽への関心の高さを見せた。

高級部声楽部門・合唱で愛知朝鮮中高級学校の〝リムジン江〟(同)はこの日の「おおとり」作品となっただけあって祖国の分断をまえにその哀しみにうちかち祖国統一のためがんばっていこうとする統一先駆者の気がまえをひしひしと感じさせた。

日本に生まれ育ちながらも、いつもこころに祖国を思い、朝鮮人としての誇りを胸にいだいている学生たちの、生き生きとした表情がすがすがしかった舞台。芸術公演を通して民族教育の素晴らしさをあらためて感じさせる大会となった。

京都一二〇〇・四条ひろば'93

古都にこだます「祖国は一つ！」

総聯・民団合同ワンコリアパレード

秋空が清々しく晴れわたった、いにしえの都大路を「祖国は一つ！」と朝鮮語と日本語で書かれた横断幕と白地に青で朝鮮半島の地図を染め抜いた統一旗を先頭にした、総聯・民団合同の一千余人のワンコリアパレード「祖国は一つ！」が民族色豊かに進んだ。昨年一一月三日、京都市中心部の四条通りでおこなわれた「京都一二〇〇・四条ひろば'93」はワンコリアパレードで最高の盛り上がりを見せた。市民、観光客ら五〇万人以上の人出（主催者発表）を見せたこの日のイベントでもワンコリアパレードはとりわけ観衆の注目を引いた。

「祖国は一つ！」の横断幕、統一旗の後ろを、金光洙本部委員長をはじめ在日本朝鮮人総聯合会(朝鮮総聯)京都府本部傘下の各団体役員と、金在河団長をはじめ在日本大韓民国居留民団（民団）京都府地方本部傘下の各団体役員が並び、手にした統一旗の小旗を振りながら、はれやかにパレードした。

朝鮮語と日本語で「農者天下之大

沿道の人々の声援に応える朝鮮総聯京都府本部委員長と民団京都府本部団長

本」「祖国統一」「民族統一」「平和統一」と書かれたのぼりをはためかせ、民族のリズムをケンガリ（鉦）やチャンゴ（杖鼓）、プク（太鼓）などの民族楽器がにぎやかに打ち鳴らす農楽隊が続く。カラフルな民族衣装チマ・チョゴリをまとい、手に統一旗の小旗を持った女性たちが華やかに行進する姿は、どちらが総聯でどちらが民団か見分けられない。

二つの団体はまったく一つに溶け込み、一つの民族として思想、信条、団体を超越した祖国統一への願いがどれほど強く、熱いかを京都市民や外国人を含む観光客ら観衆にアピールした。華やかなパレードを一目見ようと沿道の観衆も鈴なりになり、統一旗の小旗を振り、声援を送る。その数はみるみる増えていった。

京都の平安京建都一二〇〇年記念行事に朝鮮総聯と民団が統一的に参加していくことに正式合意し、発表したのは、一〇月一七日の共同記者会見の席上だった。総聯府本部の金光洙委員長と民団府本部の金在河団長、財団法人平安建都一二〇〇年記念協会の福井謙一会長（京都大名誉教授、ノーベル化学賞受賞者）ら関係三団体のトップが出席した会見では、福井会長が「両団体の合同参加申し入れをありがたく受けとめ、今日までの関係各位の尽力に敬意と謝意を表する」と述べ、京都の平安京造営に果たした朝鮮半島からの渡来人についてふれながら、「ともに京都に住む人々の相互理解と交流が深まり、故国の統一機運が高まることを念願してやまない」と強調した。

その最初の共同事業として、一一月三日の一二〇〇年記念行事プレイベント「京都一二〇〇・四条ひろば'93」に合同パレードチームとして参加し、祖国統一への熱い願いを胸に豊年の喜びを表す農楽隊、民族衣装のパレードで祝意を表したのだった。

パレードがコース中間点の四条富小路交差点にさしかかった時、朝鮮総聯の金光洙委員長と民団の金在河団長が歩み寄り、お互いに肩を抱き合いながら固く握手を交わした。二人の顔がみるみる紅潮し、何度となく背中をたたき合う。報道陣が二人に殺到する。その瞬間、農楽隊の打ち鳴らす民族楽器が大音響を上げ、パレード参加者、沿道の同胞と日本市民の間から大きな歓声が巻き起こる。大小の統一旗が激しく打ちふられ、参加者と観衆が一つになって、パレードは最高潮に盛り上がった。

総聯委員長と民団団長は富小路から終着点の四条河原町まで、同胞青年が担ぐ一つの輿（こし）に仲よく一緒に乗り、パレードを先導した。ワンコリアパレードの人数はいつのまにか数倍に膨れ上がっていた。終着点の河原町に達しても興奮冷めやらず、そのまま鴨川の河川敷に下りて、輪になって歌い踊った。

滋賀県の同胞男性（63歳）は「胸がつまって涙が出るくらい感動している。誰が民団で誰が総聯かわからない。同じ民族なのに一緒にやれる機会が少なすぎた」と語る。京都市議会の鈴木マサホ議員は「日本人の私が見ていても涙が溢れそうになるほど感動的。祖国統一が一日も早く達成されるよう願っている」と感想を述べていた。興奮のあまりパレードに合流し太鼓を叩いていた南朝鮮からの留学生（27歳）は「本土でもない日本で僑胞たちが分断を乗り越え一つになった姿は実に感激的だ。これこそが統一に向かう道だと確信した」と満面に笑みを浮かべた。

京都は今年、平安建都一二〇〇年を迎える。平安京の造営には朝鮮半島からの渡来人が大きな役割を果たしたと言われる。そうした朝鮮と京都の歴史をふまえ、日本と朝鮮、総聯と民団が新しい相互理解と交流を発展させる上で、今回のワンコリアパレードは大きな契機となった。

パレード後、朝鮮総聯の金光洙委員長は「思想、信条、団体を超えて民族を思う気持ち、統一の願いがこのエネルギーになった。大成功だ」と語り「総聯と民団が一つのことを協力してやることが統一であり、こうして一つになることが日本各地、そして祖国にも広がるよう期待する。今後とも民団との信頼を深めていきたい」と述べた。

民団の金在河団長は「予想以上に盛り上がり最高に感激している。両方の団体が合同で一つのことを成し遂げた喜びは大きい。来年も協力してよりよいものにしていきたい」と強調していた。

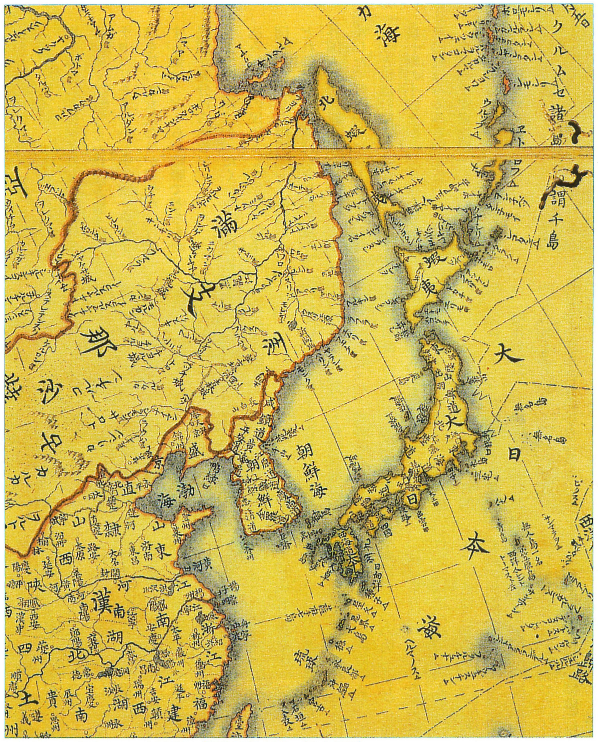
両団体は今後、共同事業を内容的により充実したものにして記念行事にともに参加することにしており、民族教育をはじめ諸権利を擁護する活動で共同歩調をとることも協議することにしている。

朝鮮総聯京都府本部と民団京都府本部は「京都1200・四条広場93」に合同で参加し「祖国は一つ、統一は京都から」の横断幕をかかげ四条通りをパレードした

シーボルトの日本地図と「朝鮮海」

朝鮮・日本の歴史と文化

●文——任正爀（朝鮮大学校教員）



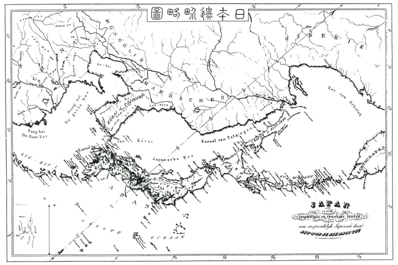
「朝鮮海」と表記された高橋景保「新訂万国全図」（日本周辺）

一九九二年八月二八日国連第六回地名会議以前に、日本の地図では「日本海」だが、朝鮮の地図では「東海」となっていることに疑問を感じていた人は少ないだろう。ところが、その会議で南北朝鮮の代表が現在の「日本海」は歴史的に様々な呼称があり、地名の再調整を要求したことから、それは政治的問題としてクローズアップされることになった。一九九三年七月六日に開催された共和国社会科学院の歴史および地理学者によるシンポジウムでも、①朝鮮では古くから「東海」という名称を用いており、②国際慣例としての海の表記は大陸を基準にして、半島と島間の海は半島名か半島の国名が使われている、③日本やヨーロッパの古い地図にも「朝鮮（高麗）海」と表記されているという論拠によって、現在「日本海」となっている表記は「朝鮮海」、あるいは「朝鮮東海」に変更されるべきだと主張した。①、②の正当性については改めて述べるまでもないが、③については日本やヨーロッパの古地図には「日本海」と表記されたものもあり、現在「日本海」という呼称が、国際的に用いられているならば、それが固定化された経緯を明らかにする必要があるだろう。

そもそも、ヨーロッパの地図に朝鮮や日本が登場するのは一五世紀以降のことで、始めはマルコ・ポーロによって、伝わった情報をもとに想像によって描かれていたものが、一六世紀に入ってポルトガル船員の手書き航海案内書の海図に形として現れた。そして、一五九五年のオルテリウス『地球の舞台』に掲載された宣教師ルイス・テイセラの「日本図」以後、この地域の実態に即した地図が製作されるようになった。その後「朝鮮（高麗）海」、「東海」あるいは「日本海」など様々に表記された数多くの地図が刊行されているが、この地域の地図の完成と「日本海」の呼称固定化で決定的な役割を果たしたのは、実は日本蘭学史にその名を残

▲「朝鮮海」と表記された一七四八年ジル・ロベール『地図帳』（パリ）の「日本国」

1595年のオルテリウス『地球の舞台』に掲載された宣教師ルイス・テイセラの「日本図」。以後、この地域の実態に即した地図が製作されるようになった

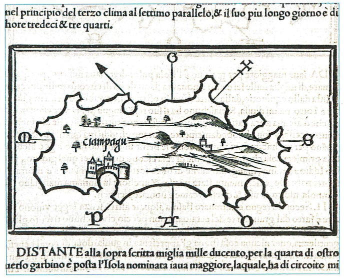

シーボルト『日本』に掲載された高橋景保の「日本辺海略図」の翻訳図

すドイツ人医師シーボルトである。

シーボルトは一八三二年の研究報告集『日本』の第一部に、幕府天文方・高橋景保の「日本辺海略図」（一八〇九年）を翻訳掲載しているだけでなく、一八四一年には「日本人の原図および天文観測に基づく日本国図」を、四二年には「日本国陸海海図帖」を刊行している。これらの地図は伊能忠敬、間宮林蔵の実測によるもので、当時としては最も正確な地図であり、これにより間宮海峡の存在が世界に知られ、その名も現在の地図にまで残ることになる。ところが、高橋景保の「日本辺海略図」とシーボルトの翻訳図では、今ここで問題としている「朝鮮海」の表記がまったく違っているのである。高橋原図では、朝鮮の領海付近に「朝鮮海」と表記しているのに対し、シーボルトの翻訳図では、日本領海付近に「日本海」と表記している。シーボルトが、どのような意図からそのように書き換えたのかは興味あるところだが、それが後世の国際問題の一因となるとは思いもしなかったことだろう。

シーボルトに、その地図を提供したことによって高橋景保が処刑されたことは周知の事実であるが、「朝鮮海」と表記した彼の「新訂万国全図」（一八一〇年）は、一八五五年に幕府の命を受けた山路諧孝が、一八七一年（明治四年）には現在の東大の前身の一つである大学南校が、改訂版を刊行している。故に、「朝鮮海」の呼称は明治時代になっても用いられていた。ところが、「征韓論」が台頭する一八七〇年頃を境にして「日本海」表記の地図が増え、その後、朝鮮への侵略政策が本格化するなか、すべての教科書・地図は「日本海」となり、一九一〇年の「日韓併合」によってそれは決定的になった。一九一〇年出版の『小学地理附図』第二版までは、朝鮮はまだ「韓国」となっているが（ただし筆者が確認した「東書文庫」のそれには赤線が引かれてあった）、一九一三年（大正二年）には『尋常小学地理附図』と名前も変わり、朝鮮も日本の一地方として取り扱われる。そして、それが一九四三年の教科書まで続くのである。

ヨーロッパの地図では、シーボルト以降すなわち一九世紀中頃に「日本海」表記が固定されるが、その背景には朝鮮に関する情報不足があり、そこに朝鮮の意思（主権）が間接的にさえも反映されることがなかった。日本では、明治初期まで「朝鮮海」を始め様々な呼称が用いられていたが、朝鮮への侵略政策が本格化するなかで固定化するのは、やはり意図的なことであり、ここでも朝鮮の意思（主権）はまったく無視されているが、一九一〇年以降はそれ自体が抹殺される。「朝鮮海」か「日本海」かの呼称問題を単なる地理学上の問題ではなく、過去の日本の植民地政策の残滓として、その清算を訴える南北朝鮮の主張の本質は、まさにこの点にある。



想像によって描かれたベネティット・ボルドーネの「地図」（ジパング）一五二八年

ズ ー ム イ ン ・ は ば た く

梁富好（リャンブホ）

マサチューセッツ工科大学情報化機械システムセンター研究助手、同大機械工学科博士課程

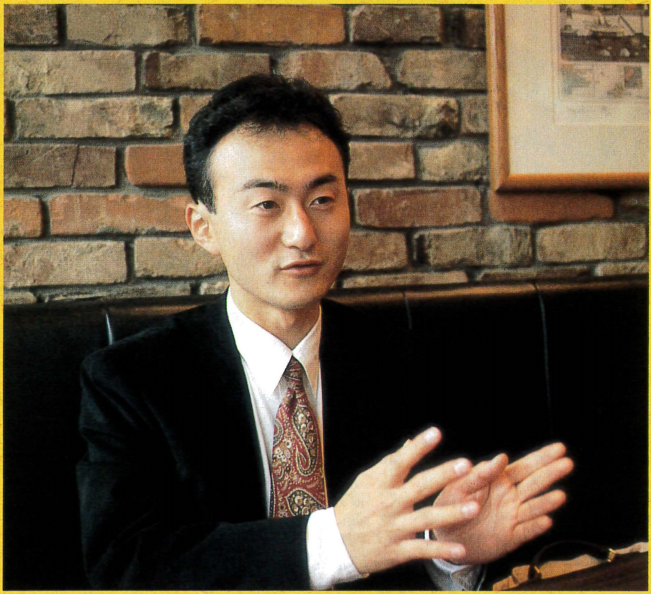
国際的人材育て民族に貢献

マサチューセッツ（MIT）といえば工科大ではアメリカ一といわれる名門。専攻はロボット工学で知能制御を研究中だ。弱冠二八歳。来年には博士号が取れそうだという。

「まだ今は二、三歳以下の知能しかないのですが、二一世紀には一家に一台ドメスティック（ホーム）ロボットが普及するでしょう。宇宙開発にもロボットは不可欠。自分の組み立てたロボットとスペースシャトルに乗り込めたらうれしいですね」

幼い頃から数理の世界が大好きで、大阪朝高から京大数理工学部に。しかし数式のみの世界に興味を失い、「もっと動きとイメージが鮮明なものを」と模索した末たどり着いたのがロボット工学。「ちょうどMITから有名な教授がきていて、これからの先端はこれだ、と実感したんです」

大学では夜中の二時、三時まで研究室に籠もる。それでは世情にうといかと思ったら「研究ばかりが人生じゃない。人生の大部分は在日朝鮮人問題や民族、人権問題に費やしたい」と意外な言葉。



◆好きな言葉　思いやり

留学以前の自分は『差別されてる在日朝鮮人』だった。今までそれに打ち勝つために頑張ってきた面も大きい。アメリカに行って、より幅広い視座から差別問題をとらえるようになった。「アメリカでは、マイノリティー（少数民族）問題は個人意識では未解決でも、まず法が差別をなくす努力を義務づけています。差別は犯罪であり、社会的糾弾を受けるんです。戦時の日系人強制収容者に大統領の名で補償がおこなわれているのに比べれば、日本には人権意識が全然ない」と辛らつだ。

将来のことはまだ思案中だが、今気になるのは在日の教育。「在日朝鮮人社会にはいろんな面で恩恵を受けました。今まで学んだものをその発展に役立てたい。有志と人類に貢献するような事業を興そうという話もあるんですが、できるなら朝鮮大学校の講師もやりたい。民族に貢献できる国際性豊かな人材を育てたいんです」

科学者である前に朝鮮人であり、アジア人でありたい、その心意気がうれしい。（蒼）

豪華画集

高句麗古墳壁画をはじめ現代朝鮮美術までを集大成！

朝鮮民主主義人民共和国・朝鮮美術博物館編

朝鮮美術博物館

B４判上製内函入り
定価30,000円

発行　朝鮮画報社

朝鮮統一支持運動第12回全国集会

日朝国交正常化と連帯運動の強化を

「全民族大団結10大綱領」支持を訴える

●大分県別府市で

基調報告をおこなう若林熙事務局長

朝鮮統一支持運動第12回全国集会開会式

朝鮮統一支持運動第12回全国集会

日朝国交正常化と連帯運動の強化を

●大分県別府市で

全国集会には四一都道府県から日朝連帯運動体のメンバー五五〇余名が参加した

一九九二年一一月の第一一回宮城全国集会後、朝鮮半島をめぐる情勢は流動化し、米日「韓」による対共和国孤立化策動が一層強化されたにもかかわらず、日本国内で朝鮮統一支持運動は様々な形で進められた。

そして昨年一一月一五日、九州では初めてとなる朝鮮統一支持運動第一二回全国集会（主催＝朝鮮の自主的平和統一支持日本委員会、全国集会大分県実行委員会、日朝連帯九州ブロック準備会）が大分県別府市の「鶴見園グランドホテル」で開かれた。

四一都道府県朝鮮統一支持・日朝連帯組織の各代表らと市民ら五五〇余名が参加し、日朝友好の新たな輪を一層広めた。一四日には参加者らによる懇親会がもたれた。

全体集会では、大分県評センター議長である実行委員会の江藤匡一代表の歓迎挨拶に続き、議長団が構成された。

集会では、統一支持日本委員会の岩井章議長が主催者を代表して演説し、最近の特徴的な情勢として、「反共和国キャンペーン」と「核問題」をあげた。

この中で岩井議長は、「日本の外務省はじめマスコミは、事あるごとに共和国を悪者にしたてて宣伝している」、「核問題を解決できるのは米朝対談である。その米国が、一年間止めていた『チーム・スピリット』を再開することで、再び朝鮮に核の圧力を強化する態度は建設的なものとは言えない。誤った覇権主義と言わざるを得ない」と日米両当局の対共和国姿勢を強く非難した。

続いて、在日本朝鮮人総聯合会の白漢基副議長と連合大分の江藤清志副会長が来賓として挨拶した。

集会では、共和国の朝鮮対外文化連絡協会と世界人民との連帯朝鮮委員会をはじめ日本の各界から寄せられたメッセージが紹介された。

集会では朝鮮統一支持日本委員会の若林熈事務局長が基調報告をおこない、現情勢の特徴と当面の運動課題について指摘した。

彼は、「南北の和解と相互不可侵および協力・交流に関する合意書」と「朝鮮半島の非核化に関する共同宣言」が発表され、平和統一に明るい展望が開かれたが、その展望をまず閉ざした黒雲は米「韓」合同軍事演習「チーム・スピリット」の再開であったと強調した。

さらに朝鮮半島の核問題に対する共和国の基本的立場にふれ、米国は九三年一一月一一日付の共和国姜錫柱外交部第一副部長の『一括妥結方式』による核問題解決に関する提案を拒否する理由もないし、これに応じるべきだ」と主張した。

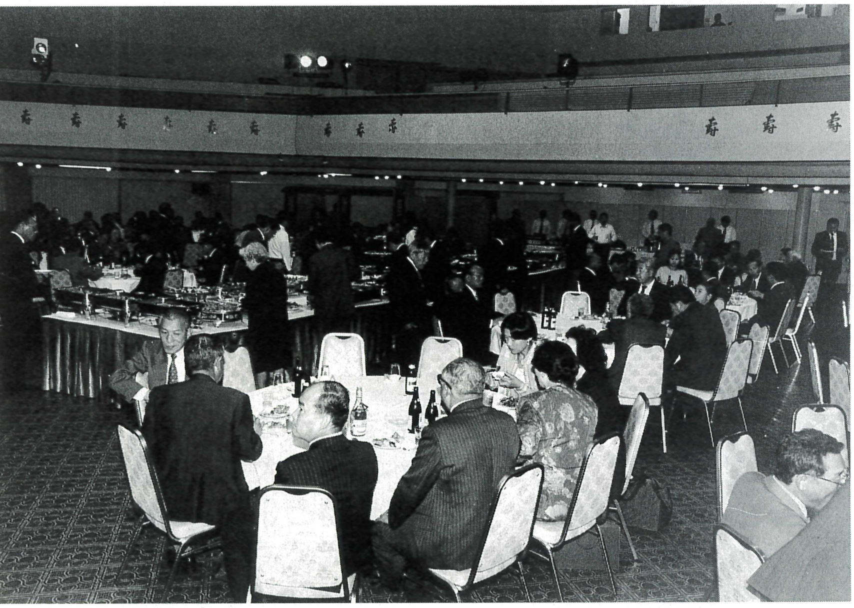
とりわけ、朝米会談の進展とは裏腹に、南側で民衆の統一運動弾圧と軍事演習が頻繁におこなわれる中、「南朝鮮と日本のマスコミは、核問題、ミサイル発射実験問題と同時に、北側の『経済不振』、『食料難』、『暴動騒ぎ』など、あることないことを書きたて、社会主義朝鮮を目の仇にした『北朝鮮バッシング』に拍車をかけている」とし、「これは朝鮮情勢が動く時必ず見られる現象で珍しいことではないが、共和国を『悪魔の国』のように描きだす情勢操作には厳しい警戒が必要である」とのべた。

若林事務局長は、「朝鮮統一のための全民族大団結一〇大綱領」の支持運動、日朝関係正常化の促進、強制

分科会では活発な討論がおこなわれた

第2分科会―朝鮮をめぐる情勢と統一問題

懇親パーティーでは芸術交流がおこなわれた



懇親パーティー

連行および「従軍慰安婦」被害者への補償措置、民族差別撤廃の協力、朝鮮問題に関する地域的交流の促進などを訴えた。

全体集会に続いて、第一分科会―植民地支配と強制連行（従軍慰安婦問題）の真相調査の現状（助言＝栗原透・朝鮮人強制連行真相調査団日本人側連絡協議会代表）、第二分科会―朝鮮をめぐる情勢と統一問題（助言＝前田康博・北九州大教授）、第三分科会―日朝国交正常化と連帯運動の課題（助言＝岩井章議長）のテーマで活発な論議が交わされた。

特に第三分科会では、各地域代表の活動報告や経験、幅広い支持運動の強化などが真剣に取り上げられると共に、日本当局の「北朝鮮バッシング」に憤りを表明しつつ、その対応などが検討された。

総括集会では、各分科会の報告があり、そのまとめを岩井議長がおこなった。集会では「大分アピール」と「朝鮮人民に送るメッセージ」が満場一致で採択された。

またこの日、朝鮮統一支持運動第一二回全国集会参加者一同の名義で、細川護熙首相宛の「日朝国交正常化の促進と正しい戦後処理の実施に関する要望書」と、土井たか子衆議院議長と原文兵衛参議院議長宛の「戦争責任謝罪の国会決議と戦争責任問題調査特別委員会の設置を求める請願書」が発表された。

第１回全国クラブラグビーフットボール大会

持ち前のパワーと精神力発揮

チョンリマクラブとイワサキクラブの決勝戦

チョンリマクラブ(大阪)が準優勝
高麗クラブ(東京)は3位に

クラブラグビーの覇者を決める「全国クラブラグビーフットボール大会」で、在日朝鮮人チームが準優勝と３位に輝く大健闘をみせた。学生時代公式試合への出場を阻まれた悔しさを吹き飛ばすかのようなパワープレイに、応援に駆けつけた同胞から熱い声援がおくられた。

試合前の記念撮影

現在、日本に二〇〇〇近くあるといわれるクラブラグビーチームの覇者を決める「第一回全国クラブラグビーフットボール大会」（日本ラグビー協会主催、昨年一一月六、七日、埼玉県熊谷ラグビー場）で、堂々の準優勝を果たしたのは大阪のチョンリマ（千里馬）クラブ。東京の高麗クラブは三位と健闘した。

チョンリマクラブ（金信男監督）は、本大会に先がけておこなわれた「第五回関西協会クラブチームラグビー大会」（一〇月）で、関西ラグビー界（二〇〇チーム）の並みいる強豪を抑えて一昨年に次ぎ二連覇を果たしての「全国大会」進出。また、東日本代表の高麗クラブチーム（梁章信監督）も、「第三回東日本ラグビー選手権大会」（七月）で準優勝の成績をおさめ「全国大会」出場権を獲得した。

「全国大会」は、各地域予選を勝ち抜いた東日本代表の高麗クラブ（東京）、イワサキクラブ（茨城）、関西代表のチョンリマクラブ（大阪）と、九州代表の吉四六クラブ（大分）の四強の間で戦われた。

初日、準決勝戦で高麗をくだしたチョンリマは、二日目に吉四六を抑えたイワサキとの決勝戦に臨んだ。イワサキ（元新日鉄釜石主将の長山時盛監督）は近年急速に頭角をあらわした強豪で、先の東日本クラブチーム大会の優勝チーム。

試合は、持ち前の闘志とスピードで相手陣に食い込むチョンリマのペースで展開したが、イワサキの堅いディフェンスと、きびしい攻撃に苦戦を強いられ、結局24―10で敗退、準優勝となった。

一方、吉四六との三位決定戦で一進一退の好ゲームを展開した高麗は終始自分のペースを維持し、43―36で吉四六をくだして三位の座を獲得した。

チョンリマクラブと高麗クラブは、ともに朝鮮高校や朝鮮大学校のラグビー部ＯＢたちで構成されたクラブチーム。学生時代は、朝鮮人学校という理由で一切の公式戦出場の道を閉ざされ、やり場のない悔しい思いを味わされてきた。それだけに「全国大会」出場に見せる意欲には並々ならぬものがあった。

吉四六の高木誠一郎監督も「（決勝出場の）四チーム中、二チームが在日朝鮮人チームということに驚いた。いずれも劣らぬすばらしいチームだ」と称えていた。

チョンリマクラブ（七八年結成、部員四五人、平均年齢二五歳）は、関西クラブ大会に毎年府代表として出場する大阪府内でもその名を知られる最強豪チームの一つだ。週三回、平均で二時間以上の練習量、日曜日のほとんどが試合というハードなスケジュールをこなしてきた。

金正一主将は、「全国大会」に出るからには「絶対に勝ちたい」と意欲を見せていた。数年前まで、府大会に本名ならぬ「通名」での参加を余儀なくされた悔しさから「朝鮮人を堂々とアピールするには、試合で絶対負けたらあかん」という信念からだった。試合後「負けは悔しいが気持ちよく戦えた。試合で得たものも大きい」と晴れ晴れとした表情だった。

一方、高麗クラブ（部員五五名、平均年齢二五歳）も、八〇年に結成されて以来クラブチームとして着実な成長をとげてきた。初の東日本ベスト2の快挙をひっさげての「全国大会」出場だった。申鉉信主将は、「この大会は朝鮮人学校の卒業生にとっても『全国大会』出場という目標になる」と語る。

在日朝鮮人ラグビー協会の金鉉翼理事長兼副会長も「優勝はできなかったが、在日朝鮮人のラグビー水準を見せつけた価値ある活躍」と評価を惜しまない。

在日朝鮮人のパワーを見せつけたチョンリマ、高麗両チームは、早くも「第二回大会」めざしダッシュをかけている。

準優勝したチョンリマクラブに賞状がおくられた

京都で(株)ブライダル企画「ノアナ」オープン

京都で11月18日、株式会社ブライダル企画「ノアナ」(孫永姫社長)がオープンした。

営業の主な内容は①結婚相談②婚前準備一式③結婚式の企画と各種手続④チマ・チョゴリの仕立てや貸出など。

結婚相談では近畿地方を中心に日本各地の同胞青年の情報を収集、管理(秘密厳守)し彼らに出会いの場を提供していく。また婚前準備一切をお客の要望にあわせ引き受けてくれ、結婚式場の紹介と手続き、招待状の作成から媒酌人や司会者の紹介、写真撮影や新婚旅行の企画など専門業者と提携しながら担当する。一方、チマ・チョゴリの仕立ては有限会社金剛商会を吸収する形で衣装部が設けられた。

関係者は「種類、数ともに豊富に取り揃え、お手ごろ価格で同胞が満足できるよう奉仕したい」と意欲的。

同胞の大きな関心のなか、これからが期待される。

東京女性同盟、割高定期券問題で要請

在日本朝鮮民主女性同盟・東京都本部では、JR割高通学定期券問題が浮上した7年前からこれまで、再三にわたってJR東日本本社に対して差別改善を求める要請をおこなってきた。

11月12日、同本部・金貞花委員長はじめ本部役員や各学校教育会とオモニ(お母さん)会会長ら20人の代表は同本社を訪れ、松田昌士社長宛の要望書を朗読し手渡した。

代表らは前回要請以後、JR側でどの様な対策を講じたのか、9月に一部報道機関で報道されたような差別を解消するかわり、その減収分を日本人生徒らの通学運賃の値上げによって賄うという、いわゆるJR当局の「是正案」について質した。

また同問題に関して東京、大阪、愛知、九州の朝鮮高級学校生徒の代表が10月28日、日本弁護士連合会(日弁連)の人権委員会に人権救済を申し立てたことなどについて語りながら差別撤廃を強く訴えた。

和歌山駅前で署名運動

和歌山県では、昨年10月19日に同胞学父母と日本の市民団体による「朝鮮学校の処遇改善を求める和歌山の会」(杉谷雄二会長)が結成され、一万人を目標に教育助成の拡充を求める書名運動がくり広げられた。

11月5日には、和歌山朝鮮初中級学校・オモニ会(鄭慶伊会長)のメンバー15人が、JR和歌山駅前で「朝鮮学校に日本の私立学校なみの教育助成を求める署名」運動をおこない、「各種学校」を理由に様々な制約、差別を受けている朝鮮学校の現状を訴えるビラを市民らに配りながら署名を呼びかけた。

戸別訪問を主にくり広げた署名運動は2万145人とはるかに目標を超え22日、仮谷志良県知事に手渡された。また、「一条校」に準ずる学校として認めるよう政府にはたらきかけることと、現在支給されている「私立学校教育管理経費補助金」を「経常費助成金」にして増額支給することを求める要請書も共に手渡された。

三重・四日市市「ナルゲ会」結成

在日本朝鮮民主女性同盟・三重県四日市支部管下の20代から30代前半の若いオモニ(お母さん)たちによる「ナルゲ(翼という意)会」結成の集いが昨年11月5日に四日市市文化会館でおこなわれた。

同会は四日市在住で家庭と就学前の子供をもつ若いオモニたちの親睦を深め、民族性を高めることで育児により一層の関心を持たせようと結成されたもの。

この日、権順伊さんを会長とする役員選出ほか同県本部・高春玉委員長が祝賀挨拶をし、続いて共和病院・臨床検査科の元基春氏が、スナック菓子などの子供への悪影響などの内容で「幼児の健康と食生活について」と題した医療講座をおこなった。

権順伊会長は「地域の日本人社会と密着するより朝鮮人同士密着するほうが同じ立場で子供の問題など解決していけると思います。若い者どうし、『ナルゲ会』を通して親睦を深めていきたい」と抱負を語っていた。

チマ・チョゴリの婚礼衣装などを準備する京都管下同胞女性

署名運動をくり広げるオモニ会のメンバー

「ナルゲ会」は20代から30代前半の〝ピチピチ〟オモニたちの会。結成の集いのもよう

日本の戦後処理問題で国際討論会

日本の戦後処理問題に関する平壌(ピョンヤン)国際討論会が昨年11月7、8の両日、平壌でおこなわれ、従軍慰安婦及び太平洋戦争被害者補償対策委員会、朝鮮人強制連行真相調査団朝鮮人側中央本部、同日本人側全国連絡協議会、日本の戦争責任資料センター代表、日本弁護士連合会の弁護士、日本によるフィリピンの軍事的性奴隷被害者特別調査団、「韓国挺身隊問題対策協議会」代表、国連非政府機構の活動家らが出席した。

討論会では、共和国在住の元「従軍慰安婦」、強制連行体験者が証言し、23人の代表、学者が討論した。

各討論者は、①日本帝国主義が1905年に捏造した「乙巳5条約」の不法性と無効性②公権力による「従軍慰安婦」の強制連行と制度化③日帝の虐殺行為——などについて報告し、日本政府は過去の罪過に対し徹底した謝罪と補償をなすべきだと強調した。

始祖鳥の化石を発掘

平安(ピョンアン)北道新義州(シンウィジュ)市白土(ペクト)高等中学校の学生たちが同市白土洞の建設現場で化石標本の採集中、中生代ジュラ紀上世地層から始祖鳥の化石を発見し、金日成主席によって「朝鮮始祖鳥」と命名された。

発掘された化石を学者たちが鑑定した結果、1億5千万年前に生息していた始祖鳥の化石だということが考証された。

始祖鳥は元来、は虫類と鳥類の特徴を兼ね備えた原始は虫類に起源する鳥類の始祖として、1億5千万年前に生息していたことが世界的に公認されている。

「朝鮮始祖鳥」はその鑑定上の特徴から見て、朝鮮の地で進化してきた独自な動物であることが知られると、学者たちは指摘している。

今回の発掘によって、以前発掘された恐竜足跡化石とともに、朝鮮半島で高等な陸棲脊椎動物の起源と進化が体系的に成されたということが明白になった。

整備すすむ龍門大洞窟

龍門(リョンムン)大洞窟が観光地として整備がすすめられている。

平安(ピョンアン)北道球場(クジャン)郡にあるこの大洞窟は共和国でも代表的な石灰岩洞窟のひとつである。

洞窟の総延長は8キロ、床の広さは約4万平方メートルあり、基本窟と数十の支窟からなっている。

洞窟内には様々な大きさと形の石つららと石筍、奇岩が林立している。眩しいくらいに石筍の白い花が咲き、洞窟内はあたかも花園のように美しい。

洞窟にはまた、数十メートルの高さから落下する滝と水晶のような潭沼があって、さらに夢幻的である。

洞窟内の高さは平均7～8メートル、一番高い所で40メートルあり、平均温度は8度である。

現在、観光ホテル、遊園地、道路などの建設がすすめられており、完成すれば妙香山(ミョヒャン)観光コースのひとつになる。

平壌で第7回東アジア競技協会会議

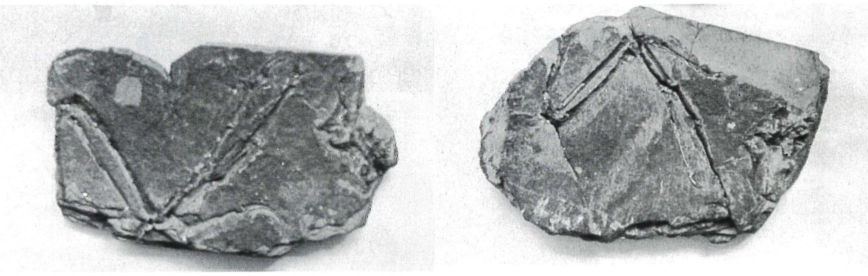
第7回東アジア競技協会会議が昨年10月24日、平壌で開かれた。

会議にはモンゴル、日本、中国、朝鮮、中国台北、マカオ、香港、南朝鮮のオリンピック委員会代表団、代表が出席した。また、グァム島オリンピック委員会代表が傍聴人として出席した。

会議では、平壌で開かれる第2回東アジア競技大会を95年9月20日から10月1日まで14種目、サッカー(男、女)、バスケットボール(男、女)、バレーボール(男、女)、ハンドボール(男、女)、卓球(男、女)、ボクシング(男)、重量挙げ(男)、レスリング(男)、柔道(男、女)、体操(男、女)、陸上(男、女)、射撃(男、女)、ボート(男、女)、水泳(男、女)でおこなわれることで原則的に合意した。

日本の戦後処理問題に関する平壌国際討論会

発掘された「朝鮮始祖鳥」の化石



福岡県山門三池郡の校長会が下関初中を訪問

福岡県山門三池郡の校長会が10月28日、下関朝鮮初中級学校を訪問し授業参観をした。

日本学校の国際化教育の研究資料と参考内容を深める目的で、校長研究会の一貫としておこなわれた今回の朝鮮学校訪問。訪れた26人の校長たちは、同校の沿革と教育目的、教育内容を聞き、質疑応答をおこなった。

その後授業を参観し、生徒たちが準備した小公演を見た。

懇談会で校長たちは「公演での音の響き、歌声、表情を見て目頭が熱くなった」「これから朝鮮学校との連携に明るい展望をもてた」「もっと大勢の日本の教員たちと市民らが朝鮮学校を参観するべきだ」と感想を語っていた。

その後、同校には「生徒らの真剣な学習風景、行儀の良さ、演奏などを見るにつれ、かつての日本の姿を思い出さずにはいられない」などの感想文が送られてきた。

広島第１初級が９千人の日本児童と交流

広島朝鮮第１初級学校が市内の日本小学校との交流を深め、民族教育の素晴らしさをアピールした。

10月27日には五日市小学校、25日には美鈴ヶ丘小学校と、21日には佐伯区内にある４校の小学校と、実に9000人にのぼる日本の小学校の児童たちと交流会をおこなった。

とくに佐伯区内４校（八幡小、五日市観音西小、五日市中央小、河内小）との合同交流会（主催・佐伯区同和教育研究協議会）は盛大におこなわれ、朝鮮学校の全児童と佐伯区内４校から2200人が参加し、また各校長、学父母、市教育委員会幹部ら数百人も参加した。同校の児童たちは民族衣装をまとって農楽舞を踊り、民族教育のすばらしさを参加者の目に焼き付けた。

日本の生徒や学父母らは「どうすればこの様に気持ちを一つに出来るのか。とても羨ましい」と語っていた。

京都第３初級がやんちゃフェスタ’93に参加

京都朝鮮第３初級学校（呉成元校長）の生徒たちが11月13日「京都やんちゃフェスタ’93」に参加し交流を深めた。

とくにこの日、同校代表が京都市長を迎え夢や希望をテーマに催された「子供サミット」にパネラーとして出席し、「朝鮮と日本の子供たちが一緒に遊べる場所があればいい」と訴えた。

(元)教業小学校でおこなわれた子供サミットには同校６年生の成慈愛さんが小学生代表とともに代表として参加､チマ･チョゴリに身を包んだ成さんは「私の夢は祖国の姉妹校の友達を日本、京都に呼び、楽しく語り、遊び、共に学び生きる大切さを学べる広場があったらいい」と語っていた。

その後子供芸能発表の場で同校と京都朝鮮第１初級学校の生徒たちが民族舞踊を披露し好評を博した。

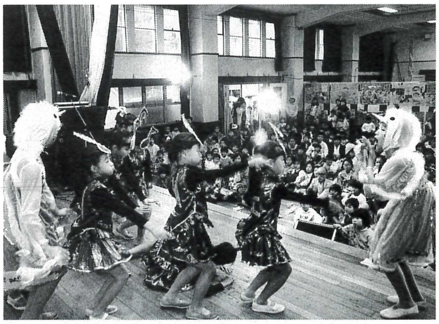
朝大生、８大学の文化祭、学園祭で公演

朝鮮大学生が去る10月30日、白梅短期大学、国際基督教大学（ＩＣＵ）、一ツ橋大学を皮切りに11月１日上智大学、11月２日武蔵野美術大学、11月３日中央大学、11月13日津田塾大学、11月23日学芸大学など８大学の文化祭、学園祭に参加し、同大学生による「歌と踊りのアンサンブル公演」がおこなわれた。

一ツ橋大学では雨天のため公演は中止となったが、日留交流会の留学生スピーチに参加。「民族教育について」と題して外国語学部・劉秀香（２年）さんが、「在日朝鮮人の差別問題について」と題して政治経済学部・金炳潤（１年）さんが各々スピーチをおこなった。

同大学以外の交流校では座談会が催され朝鮮の統一問題や、在日朝鮮人の権利、差別問題、日本のマスコミにおけるいわゆる「北朝鮮バッシング」などの問題について意見交換し、互いの理解と交流を深めた。

授業を参観する日本学校の校長



やんちゃフェスタ好評を博した生徒たちの舞台

歌と踊りのアンサンブルは
日本学生の注目を集めた

「労働法の改正を」全国労働者大会に2万5千余人が参加

「93全国労働者大会」が10月31日、ソウルで開かれ段炳浩・全国労組代表者会議共同代表をはじめ労働者、学生、市民ら2万5千余人が参加した。

大会では金泳三「政権」に労働法改正を強く要求するとともに、これに応じない場合は全面闘争を展開すると決議した。

大会決議文では「新政府の労働政策の改革が経済活性化論理におされ後退している」と指摘し、①労働法改正と結社の自由②勤労者派遣法および公共資金管理基金法の導入撤回③物価の安定④解雇労働者の復職、などを求めた。

同大会は、金泳三「文民政権」発足後、5月1日のメーデーに約3万人の労働者が記念集会を開いて以来の参加規模。同政権の出方を静観していた労働者が、ついに全面対決も辞さない方針を明確にしたことで、今後の労働運動の成り行きが注目されている。

農産物輸入開放に反対して農民たちがデモ

南朝鮮各地で、当局の米を除く14品目の農産物輸入開放措置に反対する農民らの抗議行動が盛んに繰り広げられている。

全農など180余の農民、市民団体の連合体「コメを守る汎国民対策会議」は10月12日、ソウルで代表者会議を開き、当局の外国農産物輸入政策に強く抗議した。同会議は、金泳三「政権」の市場開放措置は南朝鮮経済に甚大な被害を及ぼすものだと非難、撤回を求めた。

10日にも、「全国女性農民会総連合」所属の農民500余人がソウル市内で「コメを守る女性農民大会」を開き市内をデモした。

また、「全国農民総連盟」(全農)も同月15日、14品目の農産物輸入開放措置を阻止することを「国会」に要求した。

済州道の農民代表は10月16日、13万人の署名を持って南朝鮮「国会」を訪れ、当局の農産物市場開放措置に反対を訴えた。

「ニューコリアタイムス」創刊20周年祝賀会

カナダで発行されている同胞紙「ニューコリアタイムス」創刊20周年祝賀会が'93年10月30日、トロントで開かれた。

併せて、「離散家族捜し運動」15周年とチョン・チュンリム発行人の70歳のバースデーパーティーがおこなわれた。

祝賀会には、在米同胞の鮮于学源博士をはじめ各界から200名の来賓が参加した。

朝鮮民主主義人民共和国の海外同胞援護委員会と汎民連北側本部、海外本部、在日朝鮮人平和統一協会など95通のメッセージが寄せられたことが紹介された。

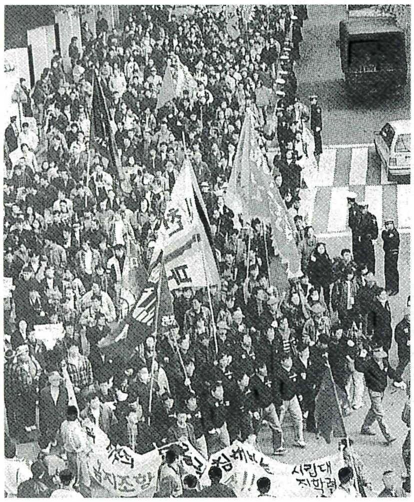
続いて、鮮于学源博士が、創刊20周年の記念講演をおこない、「ニューコリアタイムス」の20年間の歴史は、反独裁民主化、反外勢自主統一運動の歴史に重要な位置を占めていると讃えた。

金泳三の訪米に反対して在米同胞がデモ、声明発表

祖国統一北米州協会、「韓民族研究会」、民主青年学生会、統一女性会、「在米韓人女性会」、「大韓女子愛国団」など在米の民族運動団体は、南朝鮮の金泳三「大統領」の訪米に反対して93年11月17日と18日の2日間、ロサンゼルスでデモをおこなった。

17日には、金泳三が宿泊している「センチュリー」ホテル前で、18日はロス市庁前で、「核問題は対話と協商で解決せよ」、「『チーム・スピリット』は永久に中止せよ」、「『国家保安法』を撤廃せよ」とシュプレヒコールしながらデモを展開した。

一方、「民族優先の自主、平和統一政策を確立せよ」と題する共同声明を発表し、「金泳三は米国の『対北核威嚇、敵視、圧殺政策』の忠実な同盟者になってはならない」と警告した。



◀デモ行進する全国労働者大会参加者

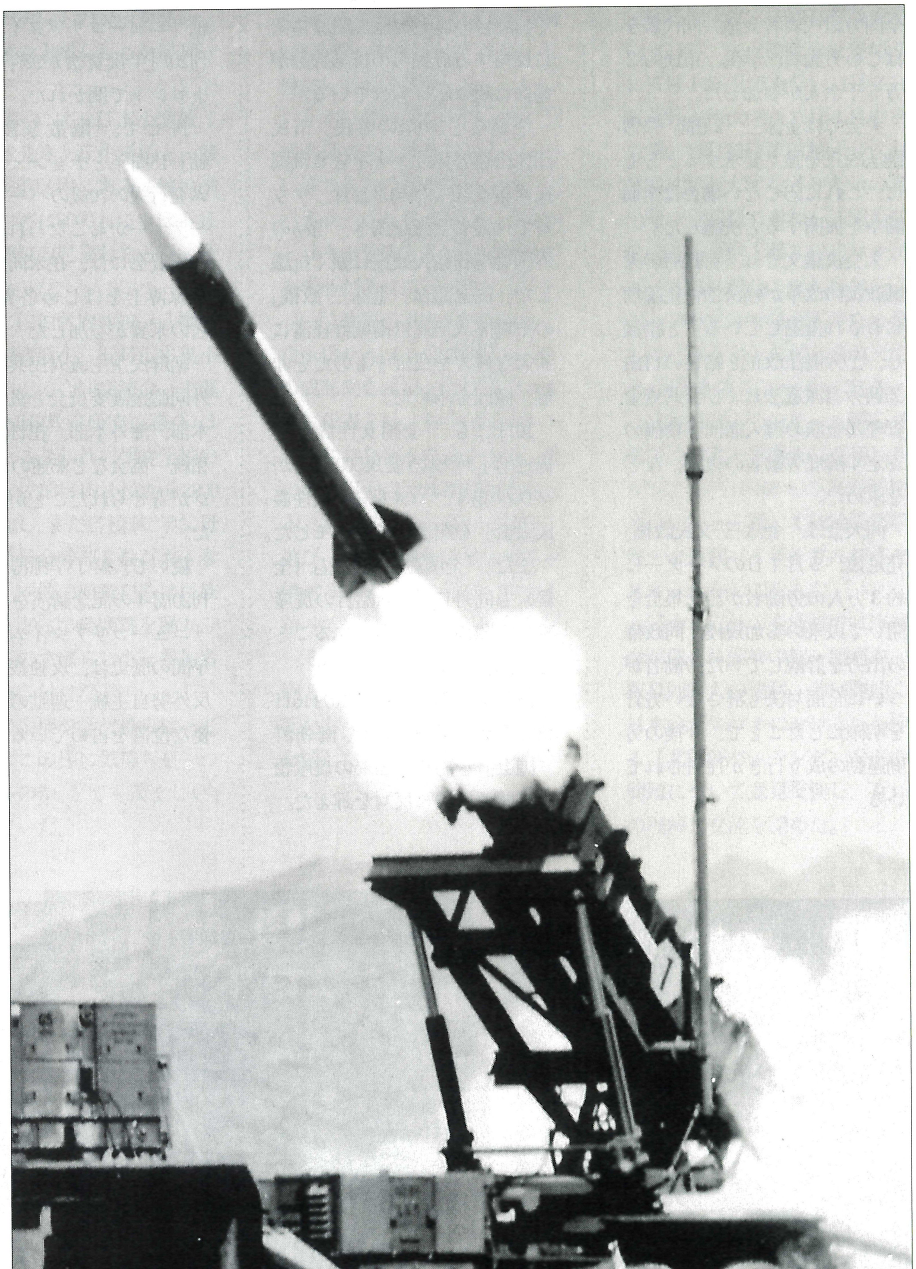
ミカンの輸入開放に反対する済州島西帰浦地域の農民

「ニューコリアタイムス」創刊20周年祝賀会

はなにか

福好昌治（ジャーナリスト）

パトリオットミサイル。「労働1号脅威論」は戦域ミサイル防衛構想推進の口実にされている（ロイター・サン）



「労働一号脅威論」が日本で横行している。それも一部のマスコミがあおりたてているだけではない。日本政府の公文書にまで明記されているのだ。九三年度の『防衛白書』はこう述べている。

「現在、さらに射程を延伸した新型ミサイル『ノドン一号』を開発中であるとみられる。本年五月下旬、北朝鮮は、同国東沿岸部から日本海中部に向けて飛距離約五〇〇キロメートルの弾道ミサイルを発射する実験を行ったものとみられるが、これは、射程約一〇〇〇キロメートルともいわれるノドン一号を発射方法に制限を加えて実験した可能性もある。ノドン一号の開発に成功した場合には、西日本などわが国の一部が、また、配備位置によってはわが国の過半がその射程内に入る可能性がある。さらに、核兵器開発とミサイル開発が結び付けば、極めて危険な状況となり得る。こうした動きは、国際社会全体に不安定をもたらす要因となっており、わが国としてもその開発動向を強く懸念している」

仮想敵・ソ連が崩壊した今、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）が最大の仮想敵になったのである。

能力に疑問あり

北朝鮮が弾道ミサイルの試射をおこなったことは事実だ。だからといって、それがただちに日本に対する脅威となるわけではない。本当に脅威となるものなのかどうか、能力と意図の両面から冷静に検討してみなければならない。まずは能力面から――。

北朝鮮によるミサイル試射に関して、防衛庁は「飛距離は約五〇〇キロメートルだったが、発射の際に仰角を高くして、飛距離を調節したと推定できることから、ミサイルの種

「労働1号脅威論」と

類は射程一〇〇〇キロメートルの労働一号の可能性が高い」（六月一四日の記者会見）と見ている。

しかし、仰角を高くして試射したとしても、実際に一〇〇〇キロメートル飛ばしてみなければ、本当に射程一〇〇〇キロメートルの能力があるのかどうかわからない。

そのうえ、ミサイルの能力は射程だけでは決まらない。破壊力や命中率等を含めて、総合的に判断しなければならない。

「労働一号」の原型となっているのは、旧ソ連のスカッドBである。これの射程は二八〇キロメートル、弾頭重量は一〇〇〇キログラム。

イラクはこのスカッドBを独自に改良して射程六五〇キロメートルのアルフセインという弾道ミサイルを開発した。その際、イラクは射程を伸ばすため、弾頭重量を一三五キログラムに減少させた。射程を伸ばすためには、弾頭重量を軽くしなければならないからだ。

同じ理論で、射程を一〇〇〇キロメートルにしようとしたら、もっと弾頭重量を軽くしなければならないはずだ。したがって、その分だけミサイルの破壊力も落ちてくる。

命中率にも問題がある。ミサイルの命中率はCEP（セップ）（半数必中界、二発に一発のミサイルが命中する円の半径）という単位で表すが、労働一号のCEPは一〇〇〇〜二〇〇〇メートルと言われている。

CEP一〇〇〇メートル以上というのは、どこに落ちるかわからない、という程度の代物（しろもの）にすぎない。これでは軍事目標攻撃には使えない。

日本攻撃の意図はない

無目的にミサイルを外国に向けて発射するような国家指導者はどこにもいない。もし、日本に対するミサイル攻撃があるとしたら、それは何らかの意図があってのことだ。しかし、北朝鮮にそのような意図があるだろうか。

万一、第二次朝鮮戦争となっても、北朝鮮の攻撃対象となるのは、「韓国」であって日本ではない。

「朝鮮半島に出現する在日米軍をたたくため」という理屈も考えられるが、緊張が激化した段階から、横須賀の空母は朝鮮半島周辺海域に出動しているし、三沢のF16戦闘機も在「韓」米軍基地に移動している。

その時、ミサイルを発射しても、からっぽの基地をたたくことになるだけだ。

TMDの口実に

米国は北朝鮮のミサイル試射を口実に、TMD（戦域ミサイル防衛）への日本の参加を強く要請している。日本もこの要請に答え、日米共同作業部会の設置に合意した。

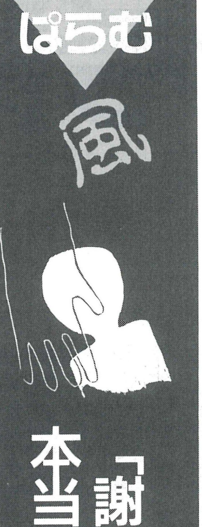
TMDはTHAAD（サード）（戦域高高度防空）、コーズ・サム（軍団地対空ミサイル）、パトリオットの改良型等から成る多層弾道ミサイル防衛網である。だが、TMDはまだ海のものとも山のものともわからない代物にすぎない。このままでは、日本は金だけとられて終わり、ということになりかねない。

いたずらに北朝鮮のミサイル脅威論を振りまくのはやめ、TMDへの参加も再考すべきだ。

（文中の「韓国」のカッコは編集部による）

米「韓」合同軍事演習で化学・生物兵器の除染剤をまく米兵（ロイター・サン）

ぱらむ



「謝罪」の本当の意味

「日本人はとにかく、よくあやまる民族だ」

ある外国の友人がこういうので、どういうことかと聞いてみると、食堂に入って何かたのむときも「すみません、〇〇ください」、道を聞くときにも「すみません、〇〇はどういくのでしょうか」というではないかという。

いや、それは別にあやまっているのではなく、何かをたのむときの、ひとつの表現として使っているのだと話したがよく分からないという。

アメリカなどで交通事故を起こしたら、絶対に自分から「すみません」などといっては相手側から「では、お前が悪いのだから弁償しろ」といわれるので日本人は注意すべきと書かれた旅行案内書を読んだことがあるが、この場合も別に悪いと思ってそういういい方を日本人はするのではなく、あいさつ替わりに使っている。日本人はよく「あやまっている」民族なのかもしれないが、一方では「あやまること」を気軽に考えている民族といえるのでは。

昨年の一一月に日本の細川首相が南朝鮮の慶州を訪問して頂上会談をおこない、記者会見で「従軍慰安婦」「創氏改名」などの例を挙げて日本の植民地支配について「陳謝」したことが日本の新聞に大きく報じられた。

これまでの日本首相の発言より一歩踏み込んでのもので、おおむね「歓迎」される発言ととらえられている。そして「韓日はいつまでも過去にとらわれているのではなく、双方に改革政権が誕生したことを契機に、新たな未来志向型の関係へと進むべき」という、いわゆる「韓日新時代」論がまことしやかに唱えられている。

金泳三「政権」側も、「従軍慰安婦」問題に対して物的補償は求めないとしたり、大田(テジョン)エキスポの「政府館」展示から、日本の植民地支配時代の部分をそっくり除いたりしており、どうもこの面で足並みを揃えようとしている。

しかしこのような動きに対して、言葉だけの「謝罪」を批判する声が南朝鮮では依然として強い。

ソウル大学の慎鏞廈教授は、『東亜日報』への寄稿(「陳謝」で過去は終わらない―一一月一二日付)でこう指摘する。

「一部ではもはや、過去は清算されたのだから、同伴協力の未来の新時代が開かれたと主張しているが、行き過ぎた解釈だ。どうして言葉ひとつで過去が清算され新時代が開かれるといえるのか。国や個人が隣人を侵略し、強盗行為をしたならば、その行動に該当する謝罪をし、賠償して未来に向けた親善をはかることが世界の常識だ。……日本の語法は謙虚で人の前をさえぎっても『おそれいります』という。韓国人をあれほど虐殺し、強盗行為を働いたならば、未来の親善のためにも心から謝罪すべきではないか」

つまり、言葉も「陳謝」で真の意味での「謝罪」でないばかりか、それにともなう具体的な補償はなく、まさに「言葉遊び」ではないかということだ。このような主張は他の新聞にも見られる一般的な論調だ。

言葉にしろ「謝罪」をよく口にするように変わってきたが、具体的なものは何もないではないかという指摘といえよう。

「よくあやまる」日本人は、ひょっとして本当の意味で「あやまること」「謝罪」の意味を知らないのかも?

(星)

キーワード

統一ドイツの深刻な〝壁〟

ベルリンの壁が崩れて五年、東西ドイツ統一から四年。

その間のドイツの実状についてはさまざまにいわれてきたが、何よりも統一の失敗が大であろう。コール首相自身が早ばやとそう認めた(九二年九月)のだから、余人は何をかいわんや、である。

かつて作家マーク・トウェインは米国と英国の関係をさして、「共通の言語をもつ二つの別の国」といったが、これはまるで現在のドイツにこそ当てはまりそうだ。

統一後ますます分裂の度を深めるドイツ。皮肉なことに、統一によって民族内部の不和、反目が強まり、あらたな不幸が次つぎと生まれている。西の人は東出身者を「オッシー」と呼んでさげすみ、東の人は、西出身者「ウェッシー」に反発を抱く。ウェッシーはオッシーを経済難民くらいにしか考えておらず、ある調査結果によると彼らの三分の二が旧東ドイツ人を以前どおり外国人として見ているという(『シュピーゲル』九三年一月一八日)。そして、西の同胞のこの冷淡で貪婪な傲慢さかげんに未来への希望を失った東出身者のあいだでは、出産率の低下、自殺者数の増加といった現象があらわれ始めている。

事実、双方の大多数の人(東七四パーセント、西六四パーセント)が、心の中に厳として〝壁〟は存在しそれはいっそう高くなっていると考えている。中には、ベルリンに再び現実の壁をつくるべきだと主張する者さえいる。

統一ドイツにおいて、ドイツの資本主義は完全にその光を失った。

九二年秋現在、旧西ドイツの失業者は一八六万人(失業率六・一パーセント)、旧東ドイツは一一一万人(同一三・六パーセント)。この数値はその後さらに上昇している。失業の増大は、とりわけ西の人を排他的、攻撃的な方向に向かわせた。「オッシーはわれわれを必要としているが、われわれは彼らを必要としていない」、これが彼らの平均的な心情である。東出身者への無理解、冷遇、利己主義的態度は、相手にむしろかつての社会主義時代へのノスタルジアを抱かせ、若者のあいだに、昔懐かしき共産主義青年同盟の制服である青シャツの復活をさえ見るに至っている。

取り壊されるベルリンの壁(一九八九・一二/ロイター・サン)

ドイツにおけるあらたな「東西対立」はこのように、同胞愛の欠如として、心の壁として現れているが、事態はこれにとどまらない。極右政党の進出、ネオ・ナチズムの台頭、人種差別の噴出により、統一後のドイツにはあらたな「南北対立」もまた持ちこまれた。方向を失ったドイツ人の焦りは、トルコ、ベトナム、アフリカなど南の諸国出身の外国人労働者に向けられ、ゾーリンゲンにおける移民居住区の焼打ちへと突き進んだ。そもそも、この人種差別的犯罪がおこなわれているあいだ、町の人々がそれに拍手喝采を送るなどということが、かつての西ドイツで見受けられただろうか。そして、九二年九月のザクセンハウゼン強制収容所の記念館の放火事件に見るように、反ユダヤ主義的傾向も、またぞろ目だつようになった。――実に多くを考えさせる「統一」ではある。

さて、唯一の分断国家として残ったわが朝鮮。遅れついでに、ドイツの経験を教訓として、より良き統一をなしとげたいものである。民族のきずなを大切にし、小さな統一をひとつひとつ積みあげていってこそ、より大きな統一がきっと現れることだろう。

(高演義)

謹賀新年

1994

平壌の冬

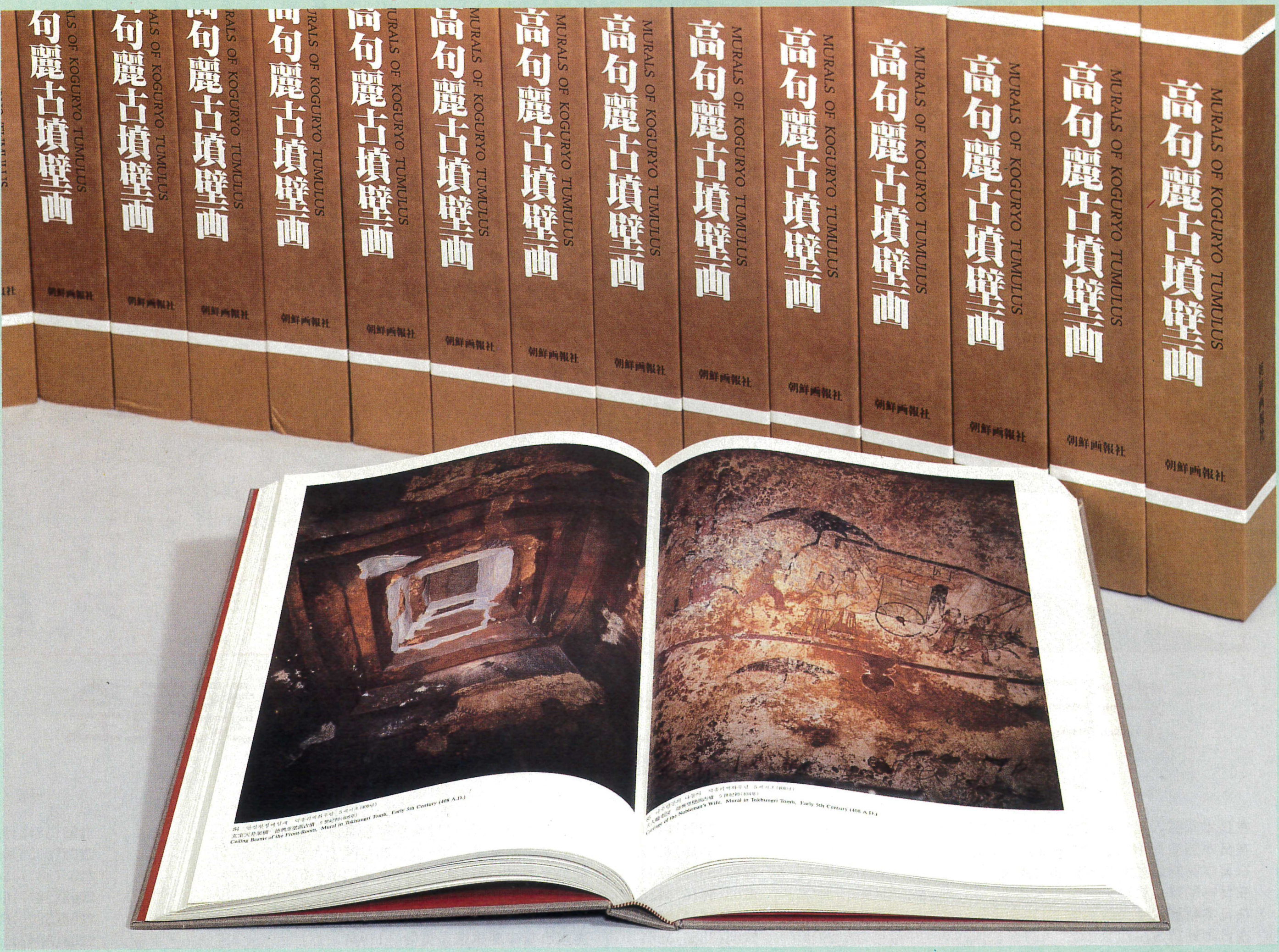
在日本朝鮮人総聯合会中央常任委員会

〒102東京都千代田区富士見2-14-15　☎03(3262)7111(大代表)

在日本朝鮮人商工連合会	110東京都台東区上野7-2-6	☎03(3844)4111
在日本朝鮮青年同盟中央本部	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)4337
在日本朝鮮民主女性同盟中央本部	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)4344
在日本朝鮮人教職員同盟中央本部	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3815)5433
在日本朝鮮人中央教育会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3815)8168
在日本朝鮮信用組合協会	151東京都渋谷区千駄ヶ谷5-29-10	☎03(3356)6561
在日本朝鮮言論出版人協会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)4339
在日本朝鮮社会科学者協会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)4335
在日本朝鮮人科学技術協会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)4320
在日本朝鮮人医学協会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3814)5754
在日本朝鮮文学芸術家同盟	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3817)0431
在日本朝鮮人体育連合会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)4357
在日本朝鮮留学生同盟中央本部	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3818)6138
在日本朝鮮仏教徒協会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3812)7081
在日本朝鮮人統一同志会	110東京都台東区上野3-15-7 飯沼ビル2F	☎03(3832)6631
在日本朝鮮平和擁護委員会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3812)2955
在日本朝鮮民主法律家協会	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3812)6800
在日本朝鮮学生委員会	187東京都小平市小川町1-700	☎0423(46)0419
朝鮮総聯中央学院	193東京都八王子市叶谷町1055	☎0426(23)1387
朝鮮総聯中央学院近畿分校	579東大阪市六万寺町1-16	☎0729(84)3621
朝鮮新報社	162東京都新宿区筑土八幡町2-4	☎03(3269)0131
朝鮮通信社	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3813)5301
九月書房	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3813)9661
時代社	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3813)9361
朝鮮画報社	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3813)7521
学友書房	174東京都板橋区小豆沢4-24-16	☎03(5392)1181
朝鮮青年社	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3813)2291
総聯映画製作所	102東京都千代田区富士見2-14-15	☎03(3262)7111
朝鮮問題研究所	161東京都新宿区下落合3-16-7	☎03(3952)0171
金剛山歌劇団	187東京都小平市上水新町2-3-9	☎0423(41)6411
在日朝鮮蹴球団	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3816)5208
朝鮮美術研究所	114東京都北区十条台2-6-32	☎03(3906)6548
朝鮮文芸社	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3817)0433
朝鮮音楽社	112東京都文京区白山4-33-14	☎03(3817)0432
金剛保険株式会社	116東京都荒川区西日暮里2-49-5 光工芸社ビル4F	☎03(3805)6049
総聯合営事業推進委員会	110東京都台東区上野7-2-6	☎03(3847)1885
朝・日輸出入商社	110東京都台東区東上野2-19-1	☎03(3833)5351
東海商事株式会社	102東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル3F	☎03(3239)3421
朝鮮特産物販売株式会社	110東京都台東区東上野2-19-1 朝・日ビル2F	☎03(3833)2651
朝鮮産業株式会社	100東京都千代田区内幸町1-3-6	☎03(3503)8521～5
チヨダ国際貿易㈱	100東京都千代田区内幸町1-3-6	☎03(3580)4651
株式会社近洋海運	105東京都港区新橋5-33-9	☎03(3434)6491
海陽薬業株式会社	110東京都台東区東上野2-19-1	☎03(3836)2181
株式会社中外旅行社	110東京都台東区東上野1-15-3	☎03(3835)3654
共同興業株式会社	110東京都台東区上野7-2-6 朝鮮商工会館2F	☎03(3844)8131
慶和商事株式会社	950新潟市竜ケ島1-1-1	☎025(245)3388
隆興貿易株式会社	110東京都台東区東上野2-19-1 朝・日ビル4F	☎03(5688)5711

1993年12月15日現在

東アジアに隆盛を誇り
すぐれた文明を開花させた
高句麗文化の精髄をなす古墳壁画の代表作を網羅した
世界で初めての本格的画集



いま神秘のベールを脱ぐ古代東方美術の源流

高句麗古墳壁画

高句麗壁画古墳の全貌を撮影――世界初刊行

発行 朝鮮画報社

定価＝70,000円 税込

本書の特色

●高句麗壁画の代表作を体系的に網羅・集大成した、世界で初めての本格的画集

高句麗壁画古墳中、その代表的な壁画を残さず網羅した世界で初めての本格的な画集。古代東アジアに栄華を誇った高句麗の秀れた文化の精髄を知り得る最良の書である。

●本書刊行のために特別撮影した最新のオリジナルフィルムによる総カラー図版

朝鮮民主主義人民共和国の格別の好意によって特別撮影したオリジナルフィルムで悠久な時代を経た壁画の深みと質感を忠実に再現した。

●最高の印刷技術を駆使した最高のカラー図版

日本で最も精度の高い製版、印刷技術と、壁画の深い味わいと色感、質感の再現に細心の考慮をはらい高級紙を使用した美しいカラー図版です。

●豪華で堅牢な愛蔵書

上製豪華貼函と外函を使用し、鑑賞性と耐久性をあわせて考慮した、豪華で堅牢な愛蔵版です。

造本・体裁

判形	A3版
表紙	上製クロス装箔押
外装	豪華函入・堅牢函付き
図版	二六〇余点総カラー二八〇頁
解説	主要高句麗壁画古墳の主人公について・朱栄憲 一六頁
図版解説	一〇頁

〒112 東京都文京区白山4-33-14 ☎03(3813)7521(代)
FAX03(3813)7524 振替口座 東京2-410608番

お申込み▶お近くの書店でご注文下さい。または小社へ直接お申込み下さい。(送料は弊社負担)

画報美術館

朱雀図
江西中墓
（高句麗時代・７世紀）

赤色に込められた古代人の情念

古代の人々が、赤（朱）色に特別の意味を与えていたことは、死者を葬る古墳の床や壁面、カメ棺、石棺、副葬品の祭祀器物などを鮮やかに朱塗りしたことからもよく知られるところです。赤色に霊界と現実を結ぶ、聖なる思いを込めていたことがうかがわれます。

ところで、古代に使われたこれら赤色顔料には、天然の赤土を利用した粗雑なものから、ベンガラ、水銀朱とよばれる純度の高い鉱物性顔料までさまざまです。

ベンガラは、鉄鉱石を窯で焼き臼などで粒状に砕いたあと、水練りして水槽に沈澱させたものです。これは鉄の製造技術と密接な関係をもつ製造法です。その意味でベンガラは鉄生産という、当時としては高度なハイテク技術を有すごく限られた集団の独占物となり、権力の象徴的存在でもありました。

ちなみに日本には壁画古墳をふくめ少なからぬ装飾古墳がありますが、純度の高いベンガラなど鉱物性顔料を使用したのは高松塚古墳のみで、その他の古墳が主に近隣での採取可能な粘土質素材を使用していることと対象的です。墓制、壁画内容と相まって、高松塚古墳の外来的影響が指摘されるところです。

日本の古墳時代に至って、ベンガラの急速な普及をみるのは、鉄製造技術を携えた朝鮮からの移住民の渡来と深い関わりをもつことはいうまでもないことです。

写真は、江西中墓の南壁に描かれた朱雀図ですが、そのベンガラは千数百年をすぎた今もみずみずしいまでの輝きを放っています。朱雀の鮮烈な赤に高句麗人の熱い情念が込められているのです。

木こりと島守り

◇ぶん・李錦玉　◇え・洪永佑

その島は、西北の風が吹く　風の島
人びとを風から囲うのは石　石の島
風と石と人が　力づよく
ひとつに　生きる
美しい海の　水の　緑の島
むかし　むかし

山ふもとの小さな村の　若い木こりは
ひとり暮らし　山に入って木を切り
切った木を薪に束ね　市場で金にかえ
て暮しをたてる　気楽なもの
だが冬の季節　島にはいつにもまして
肌を引き裂く風が吹き荒れる　凍える
手で薪を切る　山を下りる肩に背負子
がくいこむ

岩かげでホッと一息ついて　前方をみ
やると　枝を落とされた枯木が一本…
いや　やせさらばえた老人が　丘の上
で風にさらされ　体につけた緑のボロ
布をなびかせている　寒いだろうにと
木こりは駆けより　岩かげで風を避け
ようとすすめたが　老人は動こうとせ
ず　おお寒い寒い　この寒空に島守り
も楽じゃない　島守りはわしの務め
わしにかまわず早くお帰りと　寒さに
ガクガク震えがとまらない
体にまとったボロは　布ではなく緑の
苔　顔を残して全身苔むし　根が生え
たように身じろぎもせず　風に向って
背すじをしゃんとのばして

木こりは市で薪を金にかえ　濁酒一杯
飲み　熱あつの汁ご飯を食べて人心地
ついたら　あのなんとも不思議な老人
は　まだ風の中だろうかと　気が気で
ない　止むに止まれず　濁酒とっくり
に入れ　熱い肉汁冷めぬうちにと　あ
の丘へひとっ飛び　老人に　どうぞと
さしだした　熱い汁と酒を飲み体を温
めてと

だが首をふって　わしはそのような食
べものは口にしない習わし　気持だけ
嬉しく受けとると　木こりを見つめる
老人の目は温かく　声はやさしかった

吹き荒さぶ寒風の中　立ちつくす苔む
した老人を残して　星空のもと家に帰
った木こり　思いを残しつつ　まどろ
むうち　夢かうつつか　あの丘の上の
老人が枕元に　陽炎たつ春のような笑
顔で　ありがとう　おまえの気持がと
ても嬉しかった　あしたの朝早く　隣
村の長者の家へ行ってみなさい　おま
えに幸運がさずかるだろう　といって
消えていった　後姿を見せて

木こりは　目ざめて起きあがり　老人
の言葉をくりかえしてみては　あまり
の生生しさに　しばらく　考え　また
考えてみたが…朝早く　まずは長者の
家を訪ねてみよう

ところで　長者の家では
長者も　夢をみた　奇妙な夢をみた
枕元に奇妙な風体の老人現われ　厳し
い顔で　明朝　若い木こりが訪ねてき
たら　田んぼと畑　牛と馬とを分け与
え　木こりの暮しがたちゆくようにし
なさい　もし　木こりを手ぶらで帰す
ような仕打ちをするならば　山の神の
怒りにふれておまえの家は　必ずや滅
亡すると　いい渡した　その形相の恐
ろしさ　思いだしても　身がすくむ

起きぬけに長者が妻に話したら　あれ
えと　妻の顔色が変わった　木こりを
厚くもてなせと　わたしも同じ夢をみ
た　これはただごとではないと　長者
家の召使いみな呼び集め　いいふくめ
た　今朝　若い木こりが訪れる　くれ
ぐれも　失礼のなきように

そうこうしているうちに木こり…
大門から　奥の間に通され　山海の珍
味に香しい飲み物　下にも置かぬもて
なしに　ただ目を白黒するばかり　も
み手しながら長者がいうには　あんた
の村に田畑が三つあるので上げましょ
う　牛と馬も上げましょう　木こりは
驚いて口あんぐり　これでも不足か
あわてた長者　では　あそこの山を
蔵の家宝をどうぞどうぞ　手ぶらで帰
したら家が亡ぶ　夢のお告げが恐ろし
い　長者はびくびくおろおろ

やがて　木こり　馬と牛をひいて　そ
の背に品物いっぱい積んで　夢見心地
もらった田畑を大切に耕やして暮した

丘の上の苔むして立つ老人は島守り
西北の風吹く島の　石の島の
心やさしい木こりと　島守りの
むかしむかしの話

マダン

SCREEN

『民族と運命』(第6、7部)

●朝鮮芸術映画撮影所・朝鮮2・8芸術映画撮影所(一九九一年度作品)

謀略に翻弄される武道家の半生

国際跆拳道連盟総裁チャ・ホンギ

「民族と運命」シリーズ六〜一〇部は、祖国の繁栄と統一を願って朴正煕維新体制に忠誠を誓い、裏切られた跆拳道の創始者・崔泓熙の痛恨の半生を描く。

主人公チャ・ホンギは民族武道の伝統を結集した跆拳道を編み出し、カナダに設立した国際跆拳道連盟の総裁を務める。愛国愛族の精神を跆拳道に託し、民族の大同団結をめざす彼の門下には、多くの弟子が集まっていた。

ある日、弟子の中にソウルの「大韓民国跆拳道連盟」からの招請で同連盟と結託する者が現れる。ホンギは弟子たちの前で彼らを諭しながら、かつて自分が歩んだ曲折の半生を述懐する。

ホンギの故郷は共和国のとある山間の村だった。植民地から解放され新国家建設に青春をかける彼は、恋人の美術教師シン・タルレと未来を語り合う。ところが極左的な郡党書記の批判を受け共産主義に失望した彼は、南朝鮮の友人からの誘いにのって一人ソウルに向かう。

勇猛で空手の有段者であるホンギはかいらい軍師団長として信任を集め、朴正煕の五・一六軍事クーデター後には軍団長に登りつめる。

祖国解放戦争の折りホンギはかいらい軍によって捕らえられたタルレを救い妻としたが、タルレは心を開こうとしない。分断によって二度と北に戻れぬタルレはひそかに平壌放送を聞いてふるさとをしのび、共和国の風景を描き続ける。ホンギが昇進すればするほど、そんなタルレとの溝は深まり、苦悩するホンギはついに家を出る。

一方、クーデターによって政権を奪取した朴正煕は不平分子を徹底的に排斥し、以北出身者もその矛先となった。彼は諜報機関によって以北出身者の動向を掌握するとともに、軍内の以北出身者を前衛部隊に派遣し謀略によって失脚させようと画策する。ホンギの大きな影響力を警戒する朴正煕は、ホンギの部隊に愛人ホン・ヨンジャと全斗煥を送り込む。ホンギが育成した跆拳道部隊の勇猛な演武を見た朴正煕は、ついに彼を葬り去る指示を下す。

(シナリオ、監督=チェ・サングン、キャスト=パク・キジュ[ホンギ]、キム・ジョンファ[タルレ]、オ・ミラン[ヨンジャ]、他)

ソウルから派遣されてきたホン・ヨンジャとの再会

跆拳道師範ホン・ヨンジャと組み手をするホンギ

EVENT

高い創作意欲うかがえる

◆第11回ケナリ展

在日本文学芸術家同盟京都支部主催・第一一回ケナリ展が一一月一〜七日、ギャラリー「リフォース御所」で催された。

今回は一五人が朝鮮画、油彩、書など二五点を出品した。

「署名の朝に」(李壮漢、朝鮮画)、「萬寿寺」(高尚赫、油彩)、「花」(金日最、書)など共和国の風景や在日同胞の生活を描いた作品は好評だ。

九月には京都で初めて開かれた朝・日友好展を成功させ、一〇月には南北・海外美術家による史上初のコリア統一美術展に出品・観覧し深い感銘を受けた。

文芸同美術部長の尹英錫さんは「その感銘が今展の力作の要因だったようです。メンバー相互の親睦も深まり、団結力もアップ。来年はもっと広い会場で展覧会を開こうと決めています」と語っていた。

KOTOWAZA

七年の大旱(たいかん)に甘雨(かんう)来たり千里の他郷に旧友見える

なにやら漢詩めいているが「七年の大旱」は長い長い日照りのこと、「甘雨来たり」は、待ちに待った雨が降ることである。「千里の……」は、遠く離れた異郷に、なつかしい旧友が訪れることである。

つまり、非常にうれしいこと、よろこばしいことが重なってやってきたというわけで、こんなにおめでたいことはないのである。

人間だれしも、新しい一年を家内安全、世の中の平和を願うものだが、今年こそ、盆と正月が重なるような大慶事がやってくるかな？ くる？ くる？ こない？ くる？ くるという言葉にウソはないけれど……。

BOOKS 1

祖国、民族への熱い愛をうたう

『在日の詩　春遠からず』

キム・ハノ著

この詩集は、いわゆる専門詩人によって書かれたものではない。著者のキム・ハノ氏は一九五七年から今日にいたるまで民族教育にたずさわり、現在も朝鮮大学で教鞭をとっている教育者であり、また、朝・英・日の三ヵ国語の同時通訳者としても名高い語学者である。

こうした経歴の著者が、この詩集を上梓するにあたっての感慨を、みずからつぎのように語っている。

「詩とは、人の心の揺れ動きを、最大限の表現力で訴え、読者に一般化させようとする、文学的手法の一つで、ある詩人によれば、『散文は歩行で、詩は舞踊である』そうです」(本書「あとがき」より)

詩は詩人にしか書けないという通説があるが、キム・ハノ氏の、右のことばを読みながら、ときには、詩人以上にりっぱな詩が専門外の人によっても書かれるという事実を再認識することができる。

この詩集には、詩のほかにも、短歌も付録されている。短歌は、世界にも類例のない短詩型文学であり、もっとも日本的な文学であるといえる。そうした短歌を、在日朝鮮人がつくるということに、一種の感慨を覚える。

詩も短歌も、すべて、本書の題名にあるように「在日の詩」である。そして、筆者のモチーフは、祖国への限りなき愛情であり、それはまた、在日同胞にたいする熱い愛情である。そして、そのモチーフは、祖国の現実をあたたくとらえており、在日の同胞たちをやさしく抱擁している。

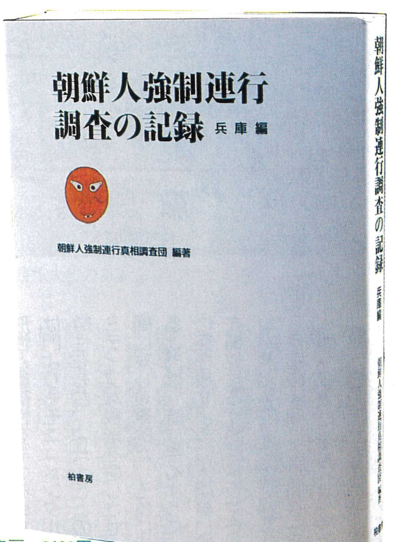
詩と短歌を読んで、まず感じられるのは、筆者の心根のしなやかさであり、逆にまた、強靭さである。この一見矛盾した心根が、渾然一体となって、キム・ハノ詩歌の決定的な特徴を生み出しているのである。

詩集は「春遠からず」とも題されている。異国の地日本で艱難辛苦をなめてきて、今もなお差別の中にある在日同胞の春も、もう近いという著者のいま一つのモチーフが、この題名にはこめられている。

●朝日カルチャーセンター　2000円

BOOKS 2

歴史認識の溝深く



●柏書房　2400円

『朝鮮人強制連行調査の記録　兵庫編』

朝鮮人強制連行真相調査団編著

日本軍国主義による朝鮮の植民地支配と、それに伴う朝鮮人の強制連行、「慰安婦」問題が論議されはじめてかなりの年月が過ぎ去った。しかし、「かなりの年月が過ぎ去った」と感じているのは、被害者である朝鮮人をはじめとしてアジア各地の人びとであって、生存していれば七〇才前後の老人やその家族である。

日本で、この問題が広く知られるようになったのは、戦争が終って四〇数年を経た、ここ数年の間のことに過ぎない。それも少数の良心的な日本人と在日朝鮮人の長年にわたるたゆみない調査の成果が、少しずつ日本国民の心にとどくようになったからである。

そして、日本の新首相の「率直な謝罪」となるのであるが、しかし、この段階にきて被害者の側は、日本に対して新たな深い疑惑をいだくことになった。それは「日本当局は口先だけの謝罪をくり返しながら何もせず、被害者の死滅を静かに待っているのではないか」という疑惑である。つまり、高度な経済成長をしたという日本の倫理性が問われているのである。

さて、各県別の真相調査はすでにいくつかの県で発表され、この欄で紹介したこともあるが、兵庫県の調査団は一九九一年に結成され、この度、この成果の発表となった。

この本は四章からなり、第一章は、兵庫と在日朝鮮人。兵庫県における強制連行の歴史が概括されている。第二章は、現地調査の記録。県下の重要な工場、造船所、飛行場などでの強制労働の調査である。あとがきでも述べられているように、熱心な協力もあった反面、「調査活動のなかでつくづく感じたことは、いずれの対象も壁が厚かったことである」つまり、多くの市と企業の非協力。第三章は、強制連行体験者の証言。第四章、資料編。

世論の高まりのなか、国連でも日本の戦争犯罪に対する調査が決議されたが、これらの調査の深まりを期待したい。

マダン

今月のアート

彫刻（H150）

「門」

盧 興 錫
（東京）

開く時がきた門

門も塔も、人がつくりだした構築物の中でもっとも力強い造形性と象徴性をもつものだ。塔は門よりもモニュメンタルな象徴性をもち、「立つ」ことのプリミティブな畏敬を感じさせ、空間に対し攻撃的だ。それに比べると門は、時に抱くように、時に突き放すように人間臭い空間を構成する。門はドラマティックな象徴性をもつ。

他国の蹂躙により閉じられた「門」、戦火にまみれた瀕死の「門」、血の流れさえ遮る塗り固められた「門」……なんと長い間、わが国の「門」は閉じられてきたことか……。

閉塞された門は悶え苦しみ、やがてそのおおらかな造形性を失い、重苦しい姿で積み重なり、奇妙な塔となり果てた。

偉大なこと、狂暴なことが噴火の如く起こり、次々と誘発し、全世界を炎の海と化したこの世紀。一九一〇年よりその炎に苦しめられてきたわが国。いま世紀の終焉とともに強風に煽られ暴れまくった炎も失速し鎮まり、見わたせばくすぶる黒煙だけだ。開け放てば新たなる光がさし、新風が吹きこむことを予感する。

門を開く時が来た。

タイトルは「門」だが、すがたは「門の塔」といったほうがふさわしいかも知れない。

朝鮮の 特産物

寧辺の 薬山緞

新年のあいさつ回りは新調したチョゴリで美しく

六勝亭の蓮池にしだれる柳を
一葉ごとに生糸に紡ごうか
薬山のつつじ、美しい花を
一房ごと絹に織ってごらん
ああ、五色の美しい錦に織ってごらん

これは朝鮮の人々の間で親しまれ好んで歌われる歌の一節であるが、「六勝亭（リュクスンジョン）」は平安（ピョンアン）北道寧（ニョン）辺郡の中心部に位置しており、関西八景の一つ「薬山東台（ヤクサントンデ）」は春にはつつじの花が咲き乱れ、秋にはみごとな紅葉に染まる景勝地として有名なところである。

美しい景色もてつだってか古くから絹織物の産地としても有名なここ寧辺郡では、伝統的な色、模様をいかして多種多様な絹地を生産している。

なかでもとりどりの色の地につつじの花を浮き織りにした民族的情緒にあふれた「薬山緞」は他の絹にくらべより美しく保温性に優れており、はなやかな文様と色調の高級絹地として特に人気が高い。

「薬山緞」はじめ「九龍緞」、「多色緞」、「模本緞」、「法緞」、「金剛紬」など各種高級絹地も海外市場で好評を得ている。

CULTURE

SPORTS

朝鮮

一九九三国際射撃競技大会

一九九三国際射撃競技大会が昨年一〇月六日から一〇日まで平壌（ピョンヤン）で開かれた。

今大会には朝鮮（一、二組）、モンゴル、イラン、インド、中国から四〇〇余人の選手が参加した。

大会では二〇余の種目別競技がおこなわれ、朝鮮が金メダルを二二個、モンゴルが二個、中国が一個を獲得した。

第二回全国青少年学生跆拳道競技大会

第二回全国青少年学生跆拳道競技大会が昨年一〇月一二日から一六日まで平壌の跆拳道パレスでおこなわれた。

競技大会には市、郡をへて道競技で優勝した高等中学校と人民学校の男女選手五〇〇余人が参加した。

大会では型競技と特技競技が団体戦と個人戦の方法でおこなわれた。

国際射撃競技大会のもよう

第八回人民体育大会

第八回人民体育大会が昨年一〇月一八日から三〇日にかけて平壌で開かれ、平壌と各地でおこなわれた予選競技で選抜された一万五〇〇〇余人の選手が参加した。

大会では四〇余種目の競技がおこなわれ、陸上、水泳、重量挙げ、射撃競技に出場した一一三人の選手が六三の種目別で共和国新記録を、重量挙げ、射撃競技に出場した一〇人の選手が六つの種目別でアジア新記録を樹立した。

SPORTS

在日同胞

伊丹初級サッカー部、市民スポーツ祭で初優勝

伊丹朝鮮初級学校サッカー部が、伊丹市民スポーツ祭（一〇月一六、一七日）の少年サッカー六年生の部で初優勝に輝いた。

伊丹初級は初戦から快進撃。稲野小学校との決勝戦では、1－1でもつれ込んだPK戦を4－2で勝ち初優勝。伊丹地区代表として県大会への出場を決めた。

西播中級部と飾磨西中がスポーツ交流

西播朝鮮初中級学校（白東和校長）と姉妹校の飾磨西中学校（野村嘉明校長）の第四回スポーツ交流会が昨年一〇月三〇日、飾磨西中学校運動場と体育館でおこなわれた。

この日、両校の全校生徒（西播は中級部）らが参加して紅組と白組に分かれて競技がおこなわれた。雨のためプログラムが変更され、各学年（男女）ごとの棒引きとボール取り競技がおこなわれ、ともに汗を流しながら楽しい時を過ごした。第二部ではクラブ別の交流試合がおこなわれ、サッカー、バレー（男女）、バスケット（男女）の競技がおこなわれた。

大阪朝高ボクシング部、大阪高校総体で4階級制覇

大阪朝鮮高級学校ボクシング部が、第四八回大阪高等学校総合体育大会（大阪高体連主催）で団体優勝に輝いた。高体連主催の公式大会で朝高が団体優勝を飾ったのは、今回が初めて。

昨年一〇月三〇日から浪速高校でおこなわれた大阪高校総体のボクシング競技には一五校、四四人の選手が出場。大阪朝高は八階級中、七階級に一〇選手が出場。初日から快進撃を見せ、一一月六日の決勝戦では五階級に進出して四階級を制覇した。

大阪朝高は総得点で、二位の興国高校より一四点も上回る三二点を獲得し、堂々優勝に輝いた。今春から朝高のインタハイ参加への道が開かれたこともあって、選手たちは「この成績を全国大会でも発揮したい」と意欲を見せていた。

団体優勝した大阪朝高

私の BEST SHOT 一枚

同胞大運動会

姜仙會（東京）

「第二の解放」といわれる朝鮮戦争の勝利四〇周年と共和国創建四五周年をむかえた昨年一〇月、朝鮮同胞大運動会が盛大に開かれた。

祖国統一、一〇大綱領実現のための愛国運動が展開される中で開かれたこの運動会は、日本に住む朝鮮同胞がそれぞれの考えの違いを乗り越えて同じ民族として絆を強く結ぶ機会でもあった。

会場を埋めた同胞たちが心を開いて交わる姿に、やはり民族は一つであることを実感させられた。

募集

このコーナーでは、同胞生活、朝・日親善、共和国訪問など、その他朝鮮に関する思い出の写真を募集します。簡単なコメント（二〇〇字前後）をつけてお送りください。掲載された方には記念品を差しあげます。なお、写真は返却いたしません。

朝鮮語教室・慣用語

今月は（値）

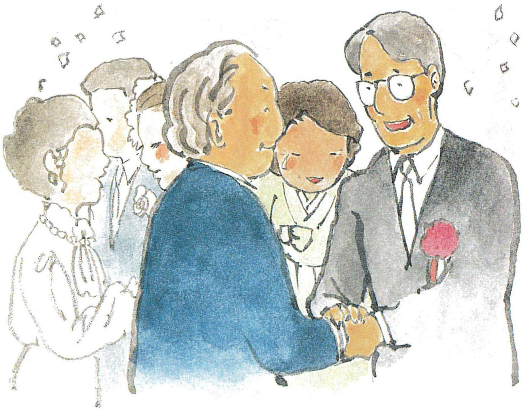
この不景気の中、商売をする人は一円でも高く、買う人は一円でも安くと大変ですね。でもほどほどに。あまり欲を張るとかえって損をすることになりかねませんから…

文・呉香淑
絵・金蓉子

レイル　シヂャンエ　カミョン　カプ　ナガヌン
래일 시장에 가면 값 나가는
明日、市場へ行ったら値打ちのある

ムルゴヌル　サドゥリセヨ
물건을 사들이세요.
ものを仕入れてよ。

コクチョン　マルゴ　ネハンテ　マッキョドゥオ
걱정 말고 내한테 맡겨두오.
心配しないで俺に任せておけ。



キョロンシギ　チャム　チャル　トゥエッソ
결혼식이 참 잘 됐소.
結婚式とてもよかったよ。

チャネ　トクブヌロ　カプシ　サゲ　チヨッソ
자네 덕분으로 값이 싸게 치였소.
君のおかげで安くあがったよ。

ク　トンム　ウィギョヌン　リヘハルス　オプソヨ
그 동무 의견은 리해할수 없어요.
あのトンムの意見は理解できないわ。

カプト　モルゴ　サダ　ハヌン　サラミオ
값도 모르고 싸다 하는 사람이오.
訳もわからずに意見を述べる人だから。

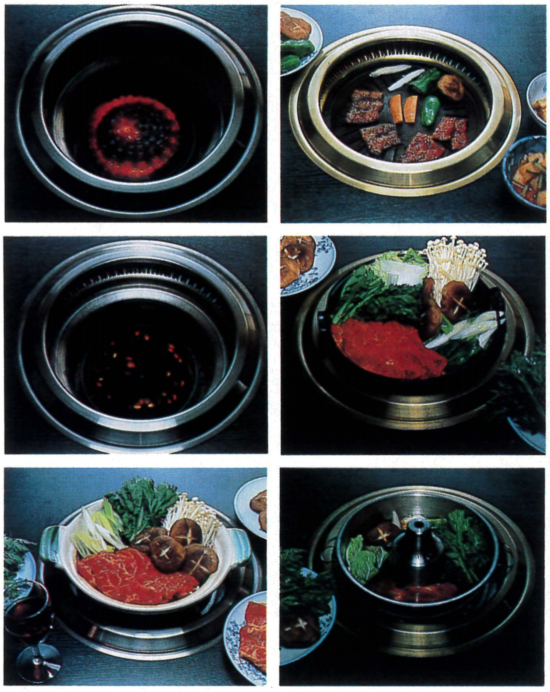
POINT

《값도 모르고 싸다 한다》は実状も知らずにああだこうだと軽率に意見を述べることです。《값이 나가다》の反対語は《값이 없다》です。又「値が安い」は《값이 싸다(눅다)》,「値が高い」は《값이 비싸다》, 品物に「値をつける」は《값을 놓다》といいます。

元祖炭火 焼肉 無煙ロースター

●ガス工事不要です。 ●火力調整器付き。
●ロースター炉内着火３～４分で火が起きます。

最新式ガス無煙 鍋兼用・多目的 6通り使用可能



㊤ガス網焼、遠赤放熱板
㊥ガス網焼、セラミック炭
㊦土鍋

㊤鋳物ロストル
㊥スキヤキ鍋
㊦シャブシャブ鍋

◎業務拡張に付 代理店募集中！
保証金、権利金不用。男女問わず。営業指導有。

■製造・発売元
株式会社ダイホー
本社／〒496 愛知県津島市大和町２丁目130－1 FAX〈0567〉28－6810
☎〈0567〉28－6811(代)

漫評

画報　蔡峻

真相を語れ
（乙巳条約の無効を証明する高宗の親書発見）

목소리 声 목소리

◎新鮮なおかつ心暖まる記事

先日、貴誌一一月号を見て、非常に新鮮に感じた記事が二つありました。その一つは「成川ろうあ学校」の記事です。どんな社会でも、障害を持って生まれる子供が存在するわけで、その児童をどの様に育てるかによって、社会制度の優劣が決ってくると思います。これまでは共和国の普通の子供たちに対する社会主義教育の素晴らしさについて多くの紹介があったものの、障害を持つ子供たちの教育はどうか、については殆ど紹介がなかったので、この記事を見て、その行き届いて着実な教育の様子が察せられて、さすが社会主義の教育制度だと安心いたしました。心暖まる記事でした。

次に、珍しい「チョウからみた朝鮮と日本」の記事も面白く読ませてもらいました。朝鮮には石宙明という立派な昆虫学者のいることを聞いていましたが、日本と朝鮮のチョウの共通性と差異の生じ方についての簡単にして要をえた説明に感服いたしました。

山本　哲（東京都八王子市・六〇）

◎差別なんてもうイヤ！

図書館で「朝鮮画報」を読みました。そこで朝鮮学校に通う学生に対して定期券の差別があるってことをはじめて知りました。

通いの電車でいつも見る朝鮮高級学校の学生がいますが、この事実を知って涙が止まらなくなってしまいました。

いつも何気なく使っている彼らの定期券、でもきっと彼らは使うたびに心が病み、傷ついているんだろうなって思うと本当につらくてたまりません。

差別なんてもうイヤです。人間同士、傷つけ合いたくないですね。

工藤千加子（山口市）

編集部メモ

●投書

日本と朝鮮に関する身近なできごとやご意見、本誌の記事へのご感想などを、五〇〇字前後にまとめてお送りください。投書のさい、おなまえ、おところ、おとし、ご職業（できれば電話番号）をお書きそえください。

◆送り先　〒112東京都文京区白山4－33－14朝鮮画報社編集局

●読者カード

本誌の内容向上に参考となるみなさまの忌憚のないご意見をお待ちいたします。貴重なアドバイスとして保存させていただき、誌面改善に役だててまいります。

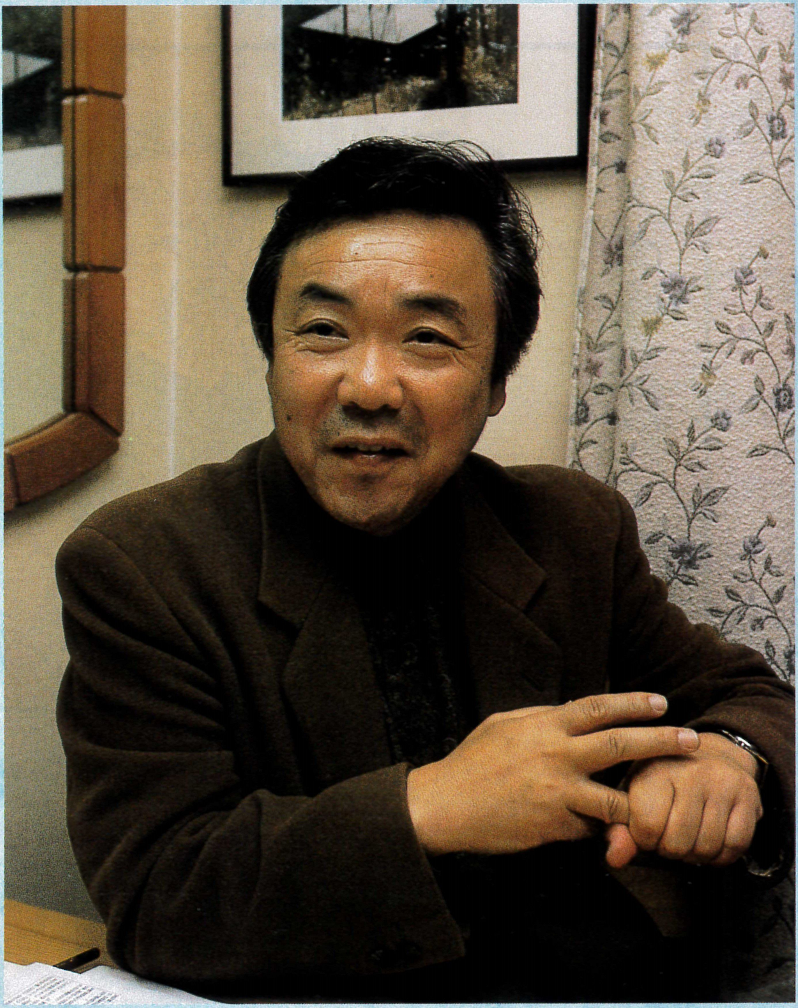
読者カードは、本誌とじこみのはがきをご利用ください。（切手を貼る必要はありません）

●本誌の購読を希望される方へ

本誌購読をご希望される方は、もよりの朝鮮総聯本部、または支部へお申しこみください。また、弊社への直接購読も承っております。

●購読料（送料・消費税込）　＊一年購読 6,492円　＊半年購読 3,246円（一部541円）

自然と人間の関わり問い続ける



「ふるさと」、「遠き落日」、「月光の夏」と人間をまっすぐ見つめた映画を撮り続けてきた。新作「さくら」は、太平洋と日本海を桜でつなごうと、桜の植樹に力を尽くし夢半ばで病に倒れた実在の人物、佐藤良二さんを描いた作品。自然と人間の関わりを、今日人間社会が考えるべき最も重要なテーマとしてきた神山監督は、映画化の話が来た時二つ返事で引き受けた。

これまでの作品同様「さくら」にも自然とふるさとを愛する人間の姿、現代人が失いつつある人と人とのふれあいが描かれている。「自然を失い自然から遠ざかるをえない現代社会」を憂える神山監督は、現代人が「抵抗するパワーさえなくし白けつつ生きている」とし、「そうしなければ生きていけない状態」を「人間としての退化」だと嘆く。

だからこそ佐藤さんの生き様は、人間として何が本当に大切なのかを観る者に問いかける。「彼は今でも奇人扱いされてるけど、本当に彼が変人だったのか。彼は日本が経済成長で突っ走ってた時代に、それに振り回され追随するだけの生き方をしなかった人、自然を愛する一番美しい心を持った人だったんです」。佐藤さんが植えた桜は、現在かなり長い並木となり岐阜県美並町に残っている。

日本人にとって格別の思いがある桜だが、監督にも特別の思い出があるのだろうか。「まったく偶然なんですけど、父が故郷の川の土手に桜の植樹をしていたんです。知らないうちにコツコツやってたみたいです」

その父はこの夏に八〇歳で亡くなったという。桜並木は二、三年後に花を咲かせる。

人が死んだ後も何百年と桜の花が咲くように、映画作りもまた人々の心に何かを残す作業である。実際「さくら」を撮りながら身につまされることが多かったという監督。二三年間の監督生活でようやく食べていけるようになったのが五、六年前。家族に犠牲を強いながらも信念を貫き夢を追い求めた佐藤さんの姿に、かつての自分の姿を見たのだろう。

一一年前に撮った「ふるさと」で、ダム建設のため水没する村を舞台に、ふるさとを失う人々の哀しみを描いた。「国家が強制的にふるさとを奪っている点で在日の人たちと共通するところがある」と言う監督。「植民地時代を含めわれわれの先輩たちが非常に罪の重いことをしてきたので、(南北朝鮮に)行きたくても行けない抵抗感がずっとあった」と、日本人としての罪の意識を率直に語る。

次作では日本の近代の成立過程を描いた作品を構想中。「日本の良さも悪さも見つめなおしたら、多少とも発見があるんじゃないでしょうか」

人間を、人と自然の関わりを、真摯に見つめるそのまなざしは、厳しさの中に暖かさを内在している。(恵)

神山征二郎

(映画監督)

こうやま・せいじろう◆1941年岐阜市生まれ。日大芸術学部・映画学科出身。新藤兼人、吉村公三郎、今井正監督らの助手を経て71年「鯉のいる村」で監督デビュー。「ふるさと」(83年)でモスクワ映画祭最優秀男優賞、文化庁優秀映画奨励賞受賞。「春駒のうた」(86年)、「ハチ公物語」(87年)、「千羽づる」(89年)、「白い手」(90年)でも数々の監督賞、優秀賞に輝く。最近では「遠き落日」(92年)、「月光の夏」(93年)などが話題を呼んだ。新作「さくら」(モントリオール国際映画祭正式招待作品)は春に公開予定。

1994

本年もよろしくお願い申しあげます。

朝銀東京信用組合	朝銀和歌山信用組合
朝銀神奈川信用組合	朝銀奈良信用組合
朝銀千葉信用組合	朝銀山口信用組合
朝銀埼玉信用組合	朝銀福岡信用組合
朝銀茨城信用組合	朝銀広島信用組合
朝銀群馬信用組合	朝銀岡山信用組合
朝銀栃木信用組合	朝銀愛媛信用組合
朝銀愛知信用組合	朝銀大分信用組合
朝銀三重信用組合	朝銀島根信用組合
朝銀岐阜信用組合	朝銀佐賀信用組合
朝銀静岡信用組合	朝銀長崎信用組合
朝銀長野信用組合	朝銀香川信用組合
朝銀福井信用組合	朝銀福島信用組合
朝銀富山信用組合	朝銀岩手信用組合
朝銀石川信用組合	朝銀北海信用組合
朝銀大阪信用組合	朝銀新潟信用組合
朝銀兵庫信用組合	朝銀宮城信用組合
朝銀京都信用組合	朝銀青森信用組合
朝銀滋賀信用組合	朝銀秋田信用組合

朝鮮信用組合学院　㈱朝信共同計算センター　㈱朝信商事　朝銀総合ファイナンス㈱　朝信健康保険組合

在日本朝鮮信用組合協会

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-29-10 TEL03(3356)6561

朝鮮画報
通巻三八九号
一九六二年九月二六日第三種郵便物認可
一九九四年一月五日発行（毎月一回・五日発行）
●編集・発行 朝鮮画報社 〒112 東京都文京区白山4—33—14
TEL 03(3813)7521(代)
FAX 03(3813)7524
振替口座 東京2—410608番
定価 四八〇円(税込)(送料六一円)

夢・いろいろキャンペーン

'93.11.1〜'94.3.31

夢・いろいろ

朝銀のスーパー定期

●ヘバラギ
●優とぴあ
●リレースーパー定期

ゆとりひろがる

朝銀の積立

●プラン・3・3・3
●ど♥利い〜夢積金
●教育積金

朝銀東京信用組合

印刷　大日本印刷株式会社